

JATCO Sustainability Report 2025



Jatco

ジヤトコ サステナビリティレポート
2025

編集方針

当サステナビリティレポートは、お客さま、従業員、ビジネスパートナー、地域社会などジャトコのすべてのステークホルダーを対象としています。ジャトコのサステナビリティ活動への継続的な取り組みをご理解いただくとともに、みなさまからのご指摘を新たな課題発掘への手がかりとし、今後の取り組みに生かしていく予定です。ご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

<アンケート>

<https://forms.office.com/r/32KDqbwgJn?origin=lprLink>



参考ガイドライン

「GRI（Global Reporting Initiative）スタンダード」

報告対象期間

2024年4月～2025年3月まで

報告対象範囲

ジャトコ株式会社および国内・海外連結子会社を対象としています。

報告サイクル

年次報告として毎年発行（前回は2024年10月）

発行年月

2025年10月

発行責任部署および問い合わせ先

経営企画部、グローバル広報部
https://www.jatco.co.jp/inquiry/agreement_other.html

目次

CEOメッセージ	3	人的資本：ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上	
ジャトコについて		ダイバーシティ&インクルージョン	48
企業情報	6	人財育成	49
企業理念	7	労働安全衛生	52
価値創造のあゆみ	8	事業基盤：誠実な経営と事業基盤の強化	
目指す姿	9	信頼される品質	59
コア技術	10	人権	62
モノづくりの考え方	11	持続可能で責任ある調達	63
サステナビリティマネジメント		ステークホルダーエンゲージメント	66
ジャトコのサステナビリティ	15	ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス	67
環境：持続可能な地球環境への貢献		災害対策（物理的ハザード）	70
環境マネジメント	20	情報セキュリティ	72
脱炭素化の推進	27	データ	
クルマの電動化への貢献	30	生産拠点別環境データ	74
循環型経済の構築	33	社会性データ	76
大気・水資源・土壤保全	36	GRIスタンダード対照表	
事業：モノづくりを活かしたモビリティ・イノベーション		GRIスタンダード対照表	78
移動の可能性を拓げるソリューション	40		
エネルギー効率の追求	42		
社会：地域社会との共生および発展への貢献			
コミュニティの発展	44		
社会貢献活動	45		

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

CEO メッセージ

サステナビリティ経営を強化し、人々の、社会の、地球の未来に貢献します



ジャトコ株式会社 代表取締役社長兼 CEO
佐藤 朋由

ジャトコは、「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスを軸に、サステナビリティを企業活動の中核として位置づけています。気候変動、資源依存、人権課題など、複雑化する社会課題に対し、グローバルに事業を展開する当社の使命として真摯に向き合い、ステークホルダーの皆さまとともに持続可能な未来を創造していきます。

サステナビリティ推進のため、ジャトコとして取り組むべき優先課題として、18項目のマテリアリティ(重要課題)を定めています。大きな柱の一つは車の電動化への貢献で、電動化時代における当社の戦略は着実に進展しています。日産自動車様向けのX-in-1電動パワートレインについては、富士工場での本格的な量産開始に加え、欧州における新しい生産会社「ジャトコ英国会社」を設立し生産準備を開始しました。さらに、独自開発中の超小型e-Axleをはじめとする革新的な電動パワートレイン技術により、2030年には電動車両向けユニットの年間生産台数500万台という目標の実現に向けて歩みを進めています。従来のCVT技術で培った伝達効率や静粛性、エネルギーマネジメントの技術を電動化領域で発揮し、競争力の高い電動パワートレインを社会に広く提供することで、電動車両の価値向上と普及を促進し、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

CEOメッセージ

カーボンニュートラルの実現に向けては、製品だけでなく、開発、生産のプロセスや物流等、2050年のバリューチェーン全体でのカーボンニュートラル実現を目指しています。生産プロセスでは、DXの推進によるスマートファクトリー化を通じて省エネルギー化の促進や、革新的な生産技術の開発により、環境負荷の大幅な削減を実現しています。また、サーキュラーエコノミーの推進では、材料調達や製品企画・設計、アフターサービス など様々な領域での資源循環の効果的な仕組み構築に取り組んでいます。

当社では、企業理念の価値観T-E⁺-A-M^{*}にアントレプレナーシップを追加し、従業員一人ひとりがイノベーションへの挑戦を通じて新たな価値創造に取り組んでいます。自動車用トランスミッションメーカーとして培った当社の技術とノウハウを自動車以外のモビリティにも展開し、新たなビジネス領域への挑戦を続けています。電動アシスト自転車用ドライブユニット、中国における電動バイク用2速自動変速インホイールモータードライブユニット、さらには電気自動車のリユース部品を活用した低圧風力発電機などの商品化に向けた取り組みを推進しています。これらの新規事業展開は、アントレプレナーシップの精神を体現するものであり、当社の技術を社会課題の解決に活かす具体例として、今後も積極的に推進してまいります。

すべての活動の根幹となるのは、当社の「人財」です。従業員一人ひとりが多様な価値観と個性を活かして活躍できる組織づくりを継続し、新たな発想と価値創造を実現しています。また、従業員のウェルビーイングと会社の持続的な成長を目指し健康経営を実践しています。日本においては、経済産業省による「健康

経営優良法人ホワイト500」に7年連続で認定され、総合順位は2024年から2年連続で上位50位以内の評価をいただきました。

さらに持続可能な企業経営の基盤として、コンプライアンスの徹底と透明性の高い事業運営を実践しています。グローバル共通の「グローバル行動規範」に基づき、全従業員が高い倫理観を持って公正で誠実な行動に努め、ステークホルダーの皆さまからの信頼を確実に築いてまいります。

急激な環境変化は困難をもたらす一方で、新しいビジネスを創出するチャンスでもあります。私たちジャトコはステークホルダーの皆さまとの真摯な対話を継続しながら、企業活動を通じた社会課題の解決に全力で取り組んでいきます。

技術と情熱でモビリティの可能性を拓き、人々、社会、そして地球の未来への貢献を果たすべく、サステナビリティ経営をさらに深化させ、持続可能な社会の実現に向けて歩み続けてまいります。

※価値観T-E⁺-A-M：(T) 全員によるチームリーダーシップ (E) アントレプレナーシップ (E) 外界志向・顧客志向 (A) 勝利へのこだわり (M) モノづくりの極み





ジヤトコについて

企業情報

企業理念

価値創造のあゆみ

目指す姿

コア技術

モノづくりの考え方



企業情報

会社名

ジャトコ株式会社（英文名：JATCO Ltd）

事業内容

自動車用変速機、
電動パワートレインおよび
部品の開発・製造・販売

設立

1999年6月28日

本社所在地

静岡県富士市今泉700番地の1

従業員数

11,700人（2025年3月31日現在、連結）

代表

代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO）
佐藤 朋由

資本金

299億3,530万円

株主

日産自動車（75%）、三菱自動車工業（15%）、
スズキ株式会社（10%）

財務状況（連結）

単位：億円

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	5,613	5,400	6,217	5,641
営業利益	267	28	241	36
当期純利益	165	△48	158	△389

(参考)

国内関係会社

- **ジャトコ ツール株式会社**
〒417-0023 静岡県富士市吉原宝町1番1号
- **ジャトコ プラントテック株式会社**
〒417-0023 静岡県富士市吉原宝町1番1号

海外関係会社

- **ジャトコ 米国会社**
1974 Midway Lane, Smyrna, TN 37167, USA
- **ジャトコ メキシコ社**
Carretera Panamericana Km 75, Col. Los Arellano, C.P. 20340. Aguascalientes, AGS., Mexico
- **ジャトコ 韓国エンジニアリング社**
Lotte IT Castle 2-4F, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea
- **ジャトコ 韓国サービス社**
Lotte IT Castle 2-412, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea
- **ジャトコ（広州）自動変速機有限公司**
N0.8, Lihong 2 Road, Science City, Guangzhou Hi-Tech Industrial Development Zone, Guangzhou, Guangdong, 510530, China
- **ジャトコ（蘇州）自動変速機有限公司**
No.2 Tangqiao Road (M), Tangshi Community, Yangshe Town, Zhangjiagang City, Jiangsu Province, 215600, China
- **ジャトコ フランス社**
ZAC des Godets - Batiment C, 1-4 Impasse de la noisette, 91370 Verrières le Buisson, France
- **ジャトコ 英国会社**
Unit 6, International Advanced Manufacturing Park (IAMP), International Drive, Sunderland, Tyne and Wear, England, SR5 3FH, United Kingdom
- **ジャトコ タイランド社**
700/999 Moo 3, Amata Nakorn Industrial Estate, Thumbon Nongkakha, Amphur Phanthong, Chonburi 20160, Thailand

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

企業理念

—— コーポレートパーパス ——

私たちの存在意義

技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる

モビリティは、人やモノの移動を可能にする。移動は、ただ動くことではない。
無限に広がる空間を動けば、新しい出会い、新しい経験が生まれ、新しい世界が開ける。
だからモビリティの可能性が拡がり、一人ひとりが思う通りの移動ができれば、
全ての人々の心に感動が生まれ、人々の交流に活力が溢れる。そして世界はより自由で豊かになる。
ジャトコは、そんな世界の実現を目指し、技術と情熱でモビリティの可能性を拡げます。

—— ミッション ——

私たちは、社会から信頼される企業として、
グリーン、安全、快適そしてワクワクする商品・サービスを通し、
モビリティに新しい価値を提供します。

—— 価値観：T-E⁺-A-M ——

Team leadership by everybody 全員によるチームリーダーシップ	Entrepreneurship アントレプレナーシップ	External mindset 外界志向・顧客志向
Aspiration to win 勝利へのこだわり	Monozukuri excellence モノづくりの極み	

激しく変化する事業環境の中で、ジャトコは改めて自社が社会に存在する意義を問い直しました。

「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスは、予測が難しい未来に向けて私たちの向かう方向性を示しています。

また、自らの強みを活かし、モビリティを通してよりよい社会の実現に貢献したいという、私たちの願いでもあります。

ジャトコは、コーポレートパーパスの実現に向けて、新しい価値を提供し続けます。

「技術」

ジャトコにとって技術は最も重要な資産であり価値の源泉です。
これまで磨き続けてきた技術を大切に、さらに深化させ、未来を切り拓く思いを込めています。

「情熱」

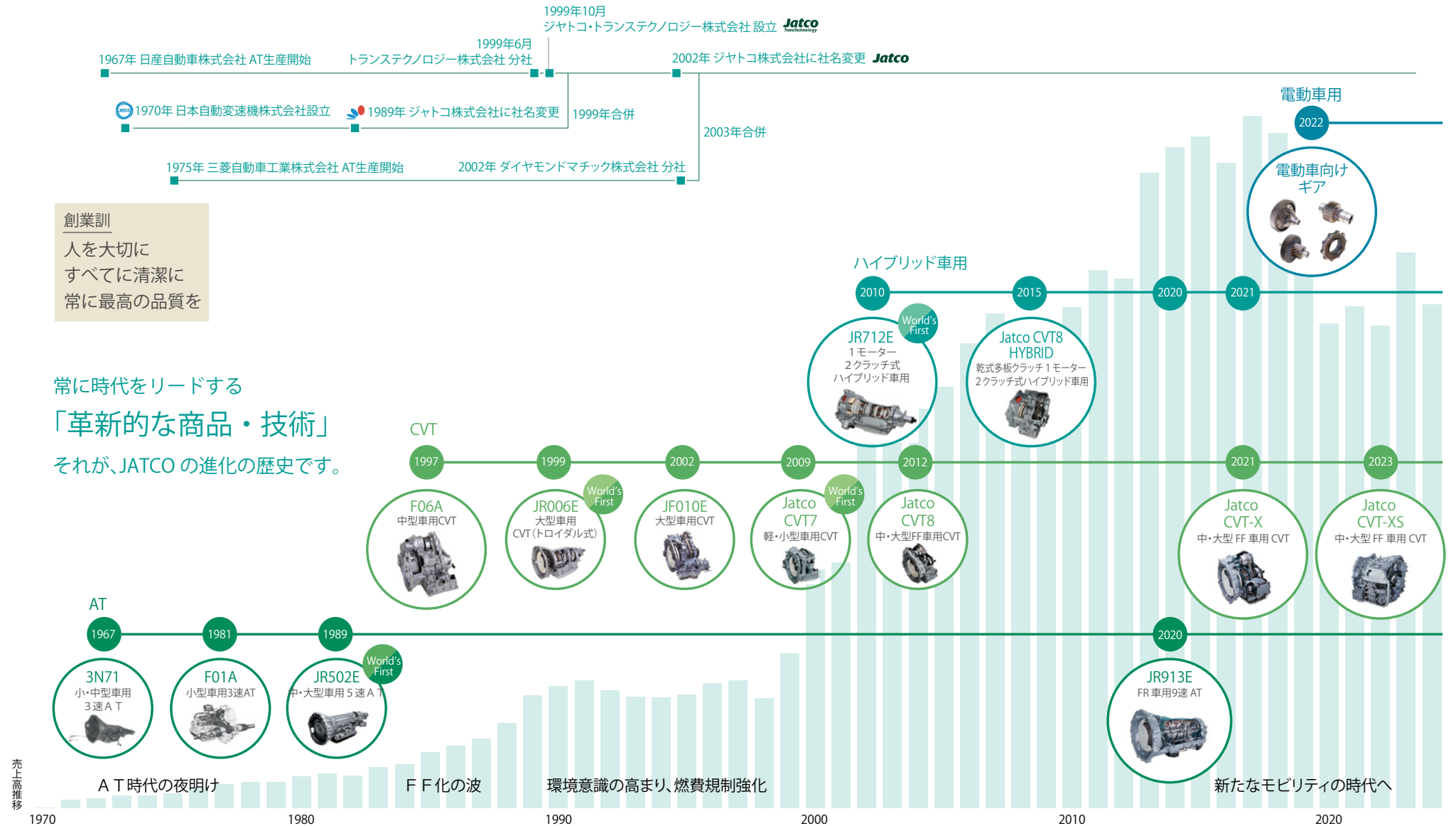
ジャトコは、モノづくりへの情熱、イノベーションへの情熱、そしてお客さまへの情熱で、新たな可能性を探索します。
情熱は私たちのチャレンジの原動力となります。

「モビリティ」

社会活動での移動とその手段の全てがモビリティです。
クルマを走る地表だけでなく、海、空、宇宙へと、モビリティの範囲は広がっていきます。
ジャトコの活動エリアもどんどん拡げていきます。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

価値創造のあゆみ



イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

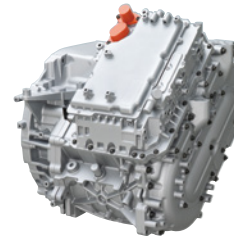
目指す姿

ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というコーポレートパーパスのもと、自動車用トランスミッションメーカーとして長年培ってきた技術を活かし、移動がもたらすより良い社会の発展に貢献していきたいと考えています。加速する電動化の中で、電動パワートレインメーカーとしても、独自技術を活かした競争力のある商品を提供することで、より豊かな電動車両の未来の実現に貢献します。また、その技術を自動車以外の新しいモビリティにも広げ、あらゆるモビリティへのドライブユニット提供の可能性を探っていきます。ジャトコならではの技術とノウハウを最大限に活用し、お客さまや社会に価値ある新しい商品やサービスを提供することで、環境課題や社会課題の解決を視野に入れながら、持続可能な社会の成長とジャトコの成長を両立させていきます。

あらゆるモビリティにドライブユニットを提供



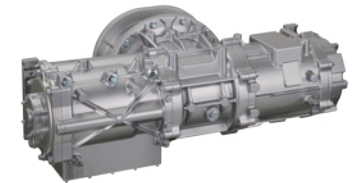
X-in-1 (3-in-1)



X-in-1 (5-in-1)



超小型e-Axle



e-Axle (変速機能付)

サステナビリティ
への
関心の高まり

カーボンニュートラル
サーキュラーエコノミー
クルマからモビリティへの
価値変化

安全で快適な
移動の実現

持続可能な
社会の実現への
貢献



移乗機構付
車いす



電動アシスト
自転車用
ドライブユニット



電動バイク用
2速インホイール
モータードライブユニット

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

コア技術

ジャトコのコアコンピテンシー

前身会社の一つである日本自動変速機の創業以来、ジャトコが世に送り出した自動車用オートマチックトランスミッションの累計台数は1億3,200万台以上にのぼります。これらCVT・ATの開発生産を通して磨いてきた、動力伝達機構の領域における、開発能力、生産技術がジャトコの強みです。

開発においては、ユニット、コンポーネントの設計・製造に加え、常に自動車メーカーとともに車両システムを開発に携わってきました。これにより、車両の制御、通信も含め、動力性能や静粛性、熱マネジメントまで対応することが可能です。また、生産においては、高精度の設計・加工技術や、高品質の製品をグローバルな生産拠点で量産し、安定的に供給することを強みとしています。

これらのコアコンピテンシーを最大限に生かし、電動パワートレインや新たなモビリティへの貢献など、新しい価値の提供を追求していきます。

車両～商品～コンポーネントすべてで価値を提供

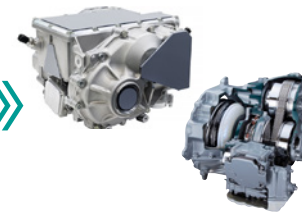
車両システム開発

- 動力性能
- 静粛性
- 熱マネジメントシステム



ユニット開発

- 電動化ユニットシステム
- e-Axleなど



コンポーネント開発

- コア部品
- ギア、モーター、原材料など



CVT・ATの動力を伝達する機能を担うギアなどの設計・加工技術



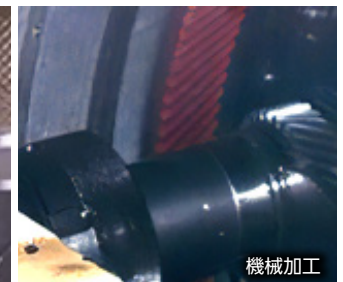
アルミ casting



鍛造



ギア加工



機械加工

高品質の商品をグローバルで安定的に供給する技術



グローバル量産



品質確保

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

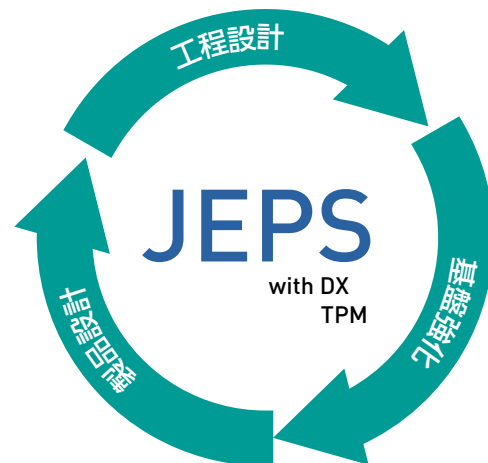
モノづくりの考え方

お客さま視点で目指す「世界No.1のモノづくり」

ジャトコは、お客さまの変化に限りなく早く対応し、安全 (safety)、品質 (Quality)、時間 (Time)、コスト (Cost) における世界No.1のモノづくりを目指し、独自の生産方式「JEPS」(JATCO Excellent Production System) を構築・運用しています。

JEPSは、素材仕入から加工、そして組立から出荷に至るまで、タイムリーで柔軟な生産・運搬を行うことで、一切のムダを排除するシステムです。

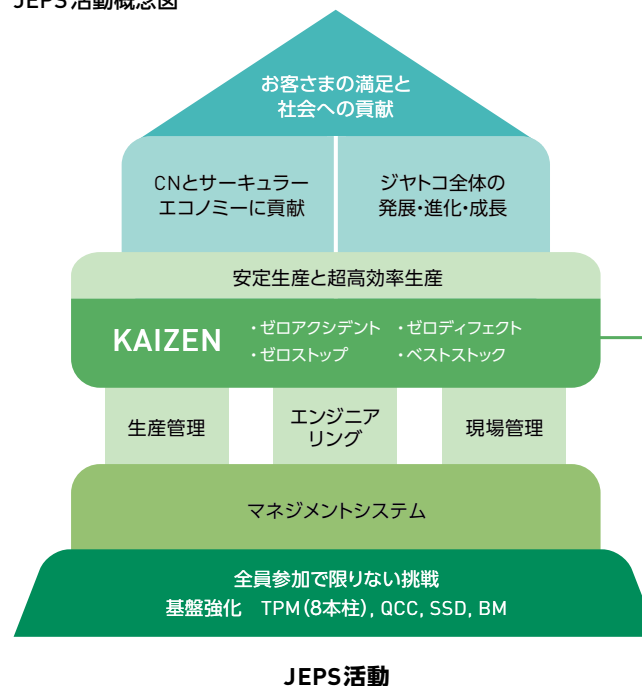
より良い製品を安定的に生産し、安定的にお客さまに供給できる、超高効率な生産を目指します。



JEPSで競争力を強化!

JEPSの目指すべき姿は、競争力を向上させ、収益に貢献することです。そのためには、全員参加で基盤を強化し、4つのKAIZEN指標を定めて、終わりのない改善サイクルを回し続け、ジャトコの発展・成長とともに、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーを含めた社会への貢献を目指しています。

JEPS活動概念図



SQTCE^{*1}すべての領域で競争力向上にチャレンジ

生まれの良いモノづくりの実現 (MP^{*2}サイクル)

量産後「品質リスク」を残さない品質設計と計画通りの結果を出す工程設計を進めます。

DXツール開発&活用による高効率寄与

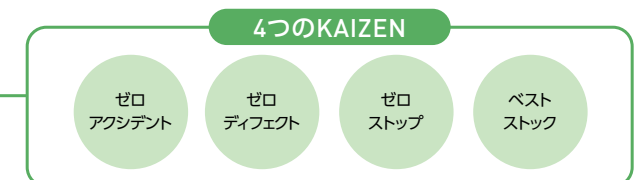
さまざまな停止ロスの最小化 (点検、測定、調整等) 問題の予知・予防、クイックアクションを行います。

全員参加TPMによる基盤強化で結果を出す

限らない改善の実行と設備に強い人材育成 (製造、保全、技術、品証、etc.) を行います。

*1 Safety, Quality, Time, Cost, Environment

*2 Maintenance Prevention



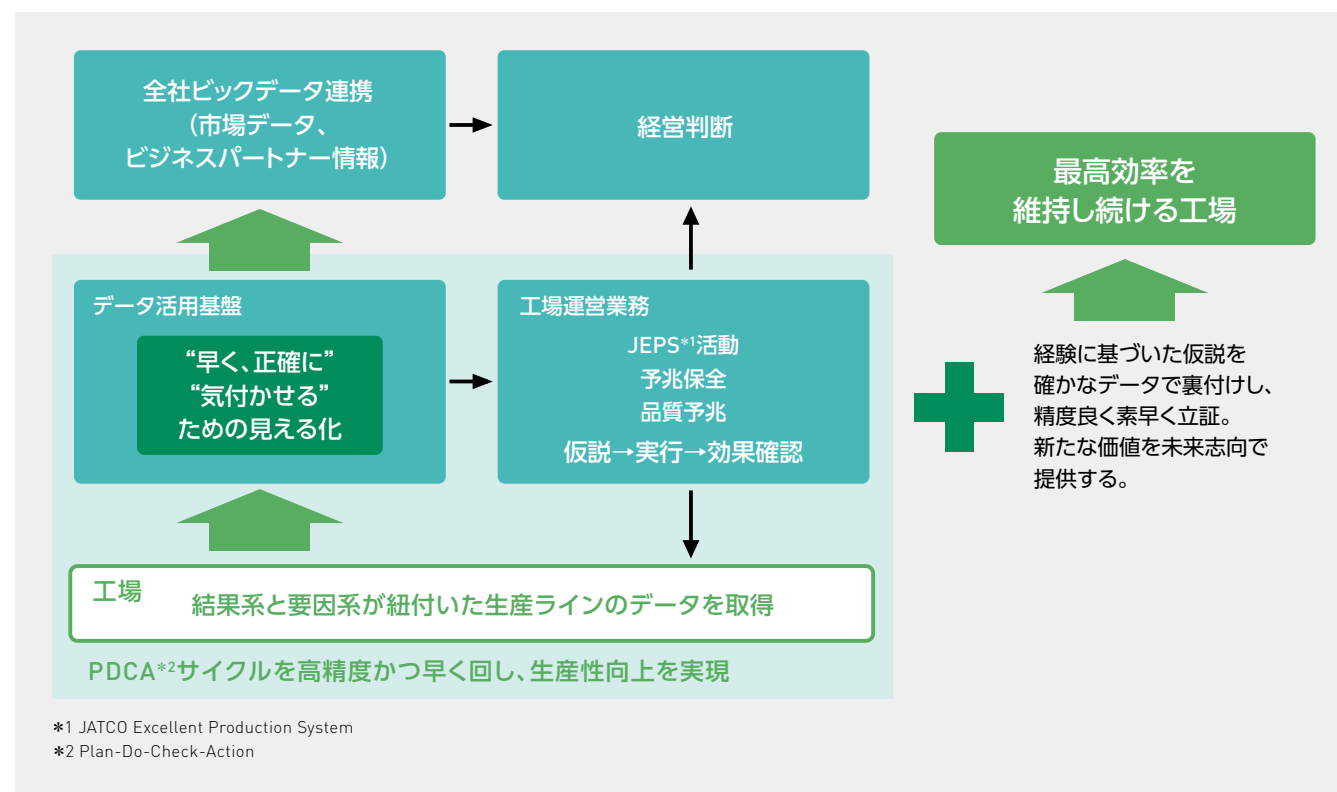
イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

モノづくりの考え方

スマートファクトリー化の実現

ジャトコは工場のスマートファクトリー化を推進しています。デジタルソリューション部を中心に、モノづくりのDX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、生産性向上や省エネルギーを推進しています。

ジャトコのスマートファクトリー構想



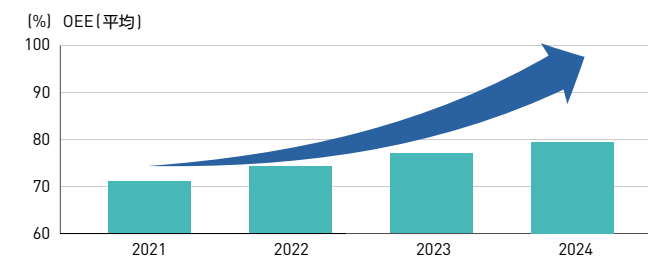
設備の稼働状況を可視化

ジャトコの工場は素材仕入れ、加工、組立、検査、出荷に至る一連の工程を1本のラインのように同期させることで、一切の無駄を排除するシステムを組んでいます。途中で生じたエラーにより生産が止まれば次の工程、またその次の工程へと影響が出てしまいます。

そうした影響をなくすためにも、生産工程の設備状態を常時見えるようにすることで「止まらない工場」を目指しています。職場で発生した品質問題などを直ちに解決するQRQC^{*}を基本とし、稼働状況が一目で分かる稼働管理ソフトウェアを内製で作成。これにより、チョコ停や故障などの現象を素早く把握し対策を打つことで、生産ロスを減らすことが可能になりました。さらに、トレーサビリティデータを蓄積・分析することで、品質の安定化と未然の不良防止を実現。不良品の発生を事前に予測し、廃棄品削減と生産性向上の両立を図っています。稼働モニターの導入により、生産ラインの効率が約10%向上しました（2021年比）。ジャトコは究極の効率と品質を目指し、デジタル技術の幅を広げながらスマートファクトリーを実現しています。そして、1台のユニットを製造するために消費するエネルギーを最大限削減し、カーボンニュートラルの実現に寄与します。



設備総合効率(OEE)実績



* Quick Response Quality Control

サステナビリティ マネジメント

ジャトコのスステナビリティ



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ジャトコのサステナビリティ

サステナビリティ担当役員メッセージ

「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というジャトコのパーパスは、モビリティは単に人やモノの移動を可能にするだけでなく、無限に広がる空間の中で新しい出会いや経験を生み出し、一人ひとりの可能性を拡げるものだと考えています。私たちは、モビリティの可能性が拡がり、誰もが思いのままに移動できることで、心に感動が生まれ、人と人との交流が活気に満ち、世界がより自由で豊かな場所になると信じています。ジャトコは、このような未来の実現を目指して、「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」という強い想いを胸に事業を展開しています。

パーパスの設定と時期を同じくして4年前からサステナビリティを企業活動の中核に据え、18のマテリアリティ（重要課題）それぞれについてあるべき姿を定義し、深化と探索を続けてきました。現在は、目標値を設定しその達成に向けて作成したロードマップに沿って活動を推進していますが、その進捗状況は各部門のトップによって構成される経営会議にてモニタリングされ、その結果をこのサステナビリティレポートに反映することで情報開示の基盤を整えてきました。このように現段階ではサステナビリティに関する活動は社内外へ浸透を進めている段階にあります。（以下太字が18のマテリアリティになります）

しかし、私たちを取り巻く環境は急速に変化し、気候変動や社会課題の深刻化など多くの逆風があります。こうした時代だからこそ、利己ではなく利他の価値観へのシフトが求められており、企業として経済価値と社会価値の両立が不可欠だと強く感じ、この視点での活動を一層強化してまいります。

ジャトコは10年以上前から、「この地域にジャトコがあってよかった」と地域の皆様から認められることを目標に、グローバルの全拠点で**社会貢献活動**を推進し**コミュニティの発展**に貢献してきました。これからは、その範囲を更に広げ、地域・国・地球規模での社会課題の解決と経済価値の創造の両立に挑戦します。

具体的には、**脱炭素化の推進、循環型経済の構築、エネルギー効率の追求、大気・水資源・土壌保全**などの環境課題への貢献はもちろん、高齢化社会への対応や移動格差の解消といった社会課題の解決や新たな移動体験の創出を目指して**クルマの電動化への貢献**に加え**移動の可能性を拡げるソリューション**を模索し、新たなビジネスチャンスにつなげてまいります。

同時に、これらの取り組みの基盤として、人的資本には引き続き**人材育成やダイバーシティ&インクルージョン**に注力し、モノづくりにおいては**信頼される品質、持続可能で責任ある調達、労働安全衛生**を徹底します。また、企業基盤の強化に向けて、**ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス、災害対策、情報セキュリティ**を深化させ、競争力の向上と社会課題解決に向けた基礎体力を高めてまいります。

人権については昨年度、全てのステークホルダーの人権尊重を明文化し、人権方針と人権ガイドラインを策定・宣言を致しました。

こうした活動を進める中で、ステークホルダーの皆様から多様なご意見を積極的にいただき、事業活動に反映させることで**ステークホルダーエンゲージメント**のさらなる向上を図ってまいります。

事業環境の変化が激しく、今後も多様で複雑な課題に直面することが想定されますが、深化と探索を止めることなく、最終的には、サステナビリティという言葉にとらわれずに全従業員が社会課題の解決と経済価値の創造を融合した活動を自然に実践し、主体的に発展させていくチームと企業文化を目指してまいります。



企画部門長 専務執行役員
坂上 尚

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

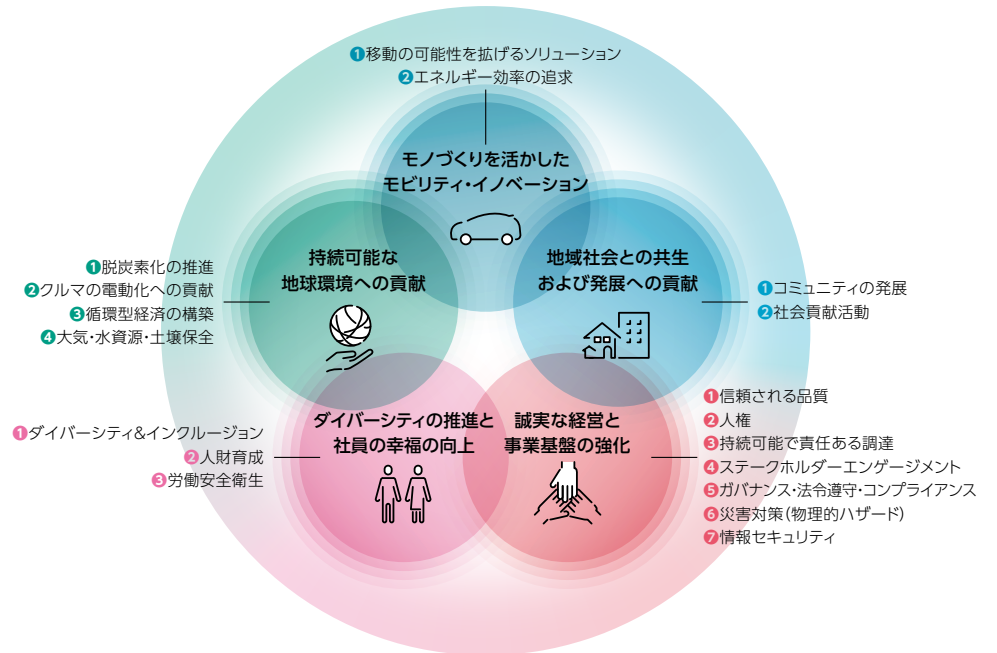
ジャトコのサステナビリティ

サステナビリティ基本方針

- 社会課題の解決**
 ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というパーパスのもと、サステナビリティを経営の中核と捉え、あらゆる事業活動やその他の活動を通じて経済の発展に貢献し、社会課題の解決に取り組みます。
- 独自価値の提供**
 ジャトコは、革新的技術で独自の価値を提供することにより、クリーン、安全で快適でワクワクするモビリティが創造する社会の発展に貢献します。
- 社会との対話**
 ジャトコは、お客さま、従業員、ビジネスパートナーのみなさま、地域社会等、全てのステークホルダーとコミュニケーションをとりながら、持続可能な社会の実現を目指します。
- 従業員の主体的な取り組み**
 ジャトコは、全ての従業員一人ひとりがサステナビリティを意識し、主体的に取り組むことによって、企業としてサステナビリティの活動を推進し、レベルアップを図っていきます。

マテリアリティ（重要課題）

ステークホルダーのみなさまの関心と当社の成長の方向性を合わせるため、ジャトコは当社が優先的に取り組むべきサステナビリティのマテリアリティ（重要課題）として、5分野18項目を特定しました。これらの重要課題については、経営会議でも論議を行い、事業活動に織り込んでいくことにより、確実に取り組みを進め、企業価値の創出につなげていきます。



重点課題特定プロセス

ジャトコのマテリアリティは以下のプロセスで特定しました。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ジャトコのサステナビリティ

マテリアリティ（重要課題）と目指す姿

中長期的な企業価値創出に向けて、マテリアリティごとに目指す姿を設定しています。

マテリアリティ(重点課題)		目指す姿	SDGs
持続可能な地球環境への貢献	脱炭素化の推進	「ライフサイクル全体」「生産」「開発」「環境活動」の4つの領域の取り組みで、2030年までにCO2 46%削減(13年比)、2050年までにバリューチェーン全体でカーボンニュートラルを実現する。	 
	クルマの電動化への貢献	トランスミッションで培った技術を活かし、競争力があり電動車両の商品力向上に寄与する電動パワートレインを提供することで、脱炭素社会の実現に向けた電動車両の普及に貢献する。	 
	循環型経済の構築	地球環境保護と持続可能な社会への貢献を目指し、リペア/リユース/リビルト/リサイクルなど事業活動の様々なプロセスにおける効果的な資源循環の仕組みを構築することで、製品・サービスの新たな付加価値を、ステークホルダーに提供し続ける。	  
	大気・水資源・土壌保全	生産活動において投入される資源や、外部に放出される物質の管理を徹底し、省資源・環境負荷低減に取り組むことにより、環境へのインパクトゼロを目指す。	  
モノづくりを活かしたモビリティ・ソリューション	移動の可能性を広げるソリューション	革新的な独自の技術により、クリーン、安全、快適そしてワクワクする商品・サービス実現の可能性を追求し、モビリティへの新しい価値を提供する。	  
	エネルギー効率の追求	製品のエネルギー効率の向上や、車両全体のエネルギー効率改善に貢献する技術開発により、社会全体のCO2削減と環境負荷低減に貢献する。	  
地域社会との共生及び発展への貢献	コミュニティの発展	ジャトコの技術やアセットを活かし、地域の活性化や課題解決に積極的にかかわることで、地域と企業が共に発展できる社会を目指す。	 
	社会貢献活動	よき企業市民として、「環境」「社会」「福祉」を重点領域とする活動に従業員が積極的に参加することにより、社会課題の解決とよりよい社会の実現に貢献する。	  
マテリアリティ(重点課題)		目指す姿	SDGs
ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上	ダイバーシティ&インクルージョン	従業員の多様な価値観と個性を尊重し、一人ひとりが活躍できる組織を実現し、そこから生まれる新しい発想で、お客さまと社会に新しい価値を提供する。そのために、女性や障がい者の活躍を促進する。	  
	人財育成	従業員は会社の「財産」であるとの考えに基づき、一人ひとりが、成長を実感できる働きがいのある職場を実現する。従業員にあらゆる成長の機会を継続的に提供し、従業員と会社が共に成長する。	  
	労働安全衛生	従業員が、安全、健康で生き生きと働ける職場環境を実現する。「安全絶対」で、災害火災のない職場づくり、安全に強い人づくりに、「健康経営」で、従業員のフィジカルとメンタルの健康の継続的な改善に取り組む。	
誠実な経営と事業基盤の強化	信頼される品質	お客さまの期待に応える製品品質と品質マネジメントを実現し、お客さまの信頼を獲得する。社員一人ひとりが高い品質意識を持ち、全社課題として取り組む。	 
	人権	人権尊重を事業活動の基盤と認識し、社会に信頼される企業として全てのステークホルダーの人権を尊重し、適用される法令・基準を遵守する。全従業員がこの認識を共有し、最高の倫理基準に基づいて行動する。	  
	持続可能で責任ある調達	ビジネスパートナーとの相互信頼を構築し、お互いの持続的な成長を目指す。サプライチェーンでの環境、社会に配慮したビジネスや、安定した部品・材料供給に向けた取り組みを実践する。	  
	ステークホルダーエンゲージメント	主要ステークホルダーの関心事について積極的に対話を行い信頼関係を構築する。ステークホルダーの声を企業活動に反映することで、持続的な企業の成長と社会の発展を実現する。	
	ガバナンス・法令順守・コンプライアンス	企業理念や行動規範の浸透、「内部統制システムの基本方針」に基づく内部統制の維持・強化により、規律ある透明性の高い事業運営を行う。常に状況をモニターし課題に対応すると共に、定期的に従業員の教育を実施する。	
	災害対策(物理的ハザード)	企業活動の根幹を揺るがす様々なリスクを想定し、事業継続のための体制を構築する。定期的な訓練を実施し、継続的な課題解決を実施する。	
	情報セキュリティ	経営層から現場まで、セキュリティポリシーを周知徹底する。情報資産の特定とリスク評価、最新の予防的セキュリティ対策の実装により、全従業員が責任感をもって、情報資産流出などのリスクに対応する。	

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ジャトコのサステナビリティ

社外からの評価・第三者認証

社外からの評価

 プラチナくるみん 2015年より連続認定	 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門 ホワイト500 2019年より上位500社連続認定 ※2年連続で最上位 グループの「1-50位」	 スポーツエールカンパニー 2021年より4回目の認定	 自転車通勤推進企業 宣言プロジェクト 2025年に認定取得	マネジメントシステムに関する第三者認証 環境マネジメントシステム 国内外の生産拠点において、環境マネジメント システムの最新規格である「ISO14001：2015版」の認証を取得しています 品質マネジメントシステム 国内外の生産拠点において、自動車産業向け品質マネジメントシステム「IATF16949」の認証を取得しています
--	---	---	---	--

SDGs達成に向けた貢献

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ジャトコは世界共通の目標であるSDGsを支持し、その目標達成に貢献してまいります。2022年4月には、本社を構える静岡県富士市が掲げる「SDGs 未来都市行動宣言」に登録するなど、SDGs 未来都市「富士市」の実現に向けて行動しています。本レポートでは、SDGsとのつながりを示すため、関連する取り組みを記載したページにSDGsの各アイコンを掲載しています。



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市





環境

持続可能な地球環境への貢献

環境マネジメント

脱炭素化の推進

クルマの電動化への貢献

循環型経済の構築

大気・水資源・土壌保全



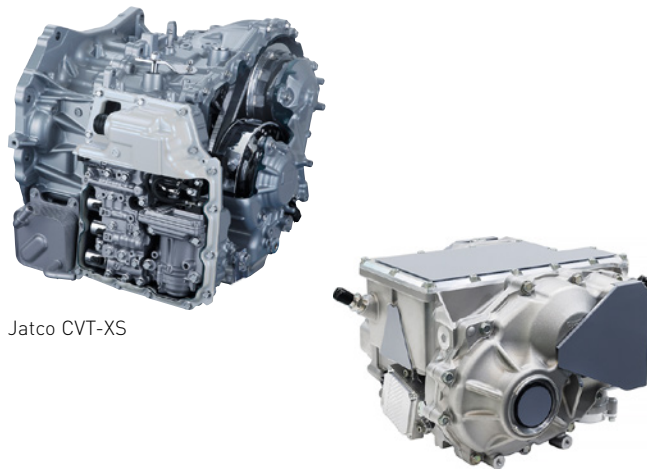
イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

環境マネジメント

持続可能な未来に向けて、 ジャトコができること

ジャトコはトランスミッション事業で培ってきた経験を生かし、走行性能と環境性能の両立を追い求めてきました。現在は電動車両向けの電動パワートレインの開発と同時に、グローバルシェアNo.1 (2024年：当社調べ) を誇るCVTの改良にも取り組んでいます。その技術や経験は、最新のJatco CVT-XSにおいて、伝達効率90%を誇るJatco CVT-Xをさらに進化させました。ドライバーの意図通りの加速感や優れた応答性により運転性能を高め、燃費も向上させてお客さまにその価値を提供しています。また、今後は電動化時代を見据え、e-Axleなどの電動パワートレインも市場投入していきます。

この技術や仕組みを生かし、クルマ以外のモビリティにも革新的な商品を提供することで、持続可能な未来に貢献していきます。



Jatco CVT-XS

超小型e-Axle

ジャトコの環境方針

ジャトコは環境活動と持続可能な社会の実現に向けて、環境方針をより時代に合った内容に見直しました。

新しい環境方針のもと、ジャトコは持続可能な地球環境実現のため、イノベーション、脱炭素、資源循環、汚染予防の領域で継続的な改善を行い、レベルアップを図っていきます

環境方針

全ての事業活動を通じて 持続可能な地球環境に貢献

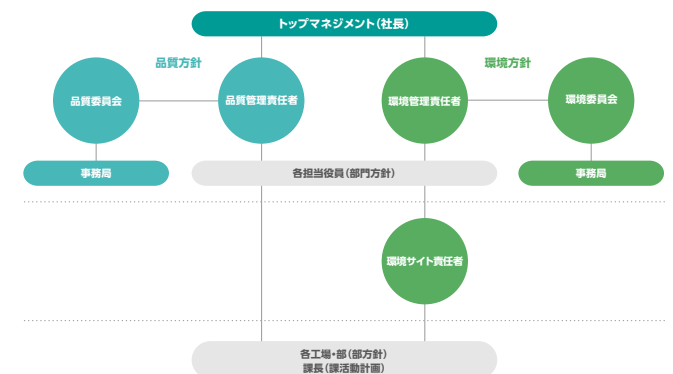
- イノベーション… エネルギー効率の高い商品と環境技術の開発及び生産
- 脱炭素 …………… 2050年にバリューチェーン全体でのカーボンニュートラル達成
- 資源循環 …………… 資源を最大限に活用するサーキュラーエコノミーの推進
- 汚染予防 …………… 環境問題の未然防止及び法令の遵守
- 継続的改善 …… 組織の人々の協働・共創による環境マネジメントシステムの有効性向上

環境マネジメントの推進体制

ジャトコの環境マネジメントは、各グローバルサイトに環境責任者、サイト責任者を任命し、各環境管理責任者の責任と権限のもと、環境マネジメントシステム（EMS）を推進しています。また2011年には、品質と環境のマネジメントシステムを統合しました。

ジャトコ全体のEMS推進は、各環境管理責任者、サイト責任者で構成される全社環境委員会で、総合的に審議と評価を行い、フォローする体制をとっています。すべての部門や生産拠点で全社共通のEMSを運用することで企業としてのペクトルを一元化し、環境マネジメントを強力に推進していることがジャトコのEMSの大きな特徴です。

ジャトコの品質・環境マネジメント推進体制



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

環境マネジメント

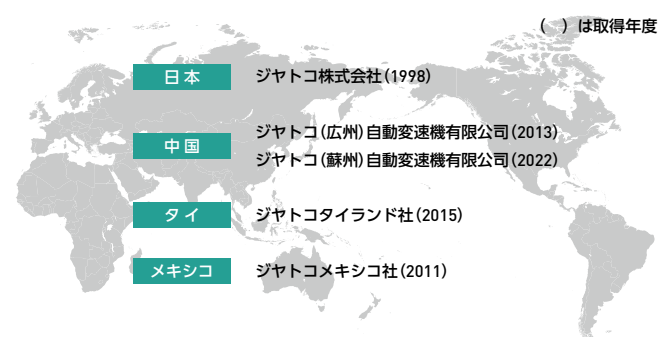
グローバルでISO14001を取得

ジャトコは、国内外のすべての生産拠点で、環境マネジメントシステムの最新規格である「ISO14001:2015版」を取得しています。ジャトコがグローバルに展開する生産拠点では、環境への負荷を最小限に抑えるために、日本の生産拠点と同様の環境保全策を展開しながら、各拠点独自のアイデアも積極的に実施しています。これからも環境への影響を抑えた生産を、世界の拠点で展開していきます。



グローバル全拠点で「ISO14001:2015版」を取得。(写真は一部)

ISO14001取得拠点



環境活動推進体制

地区別の環境委員会で地域にあった活動を推進

ジャトコでは地区別に環境委員会を設置し、その地域にあった環境活動を実施しています。

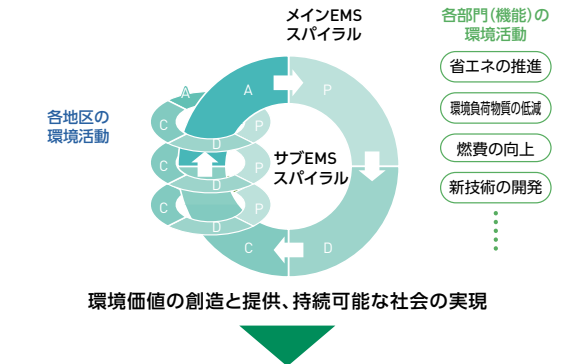
ジャトコ全体のPDCAサイクル（メインEMSスパイラル）と地区および部門ごとのPDCAサイクル（サブEMSスパイラル）という2種類のPDCAサイクルを相互に連動させ、各取り組みの方向性を統一し、より効果的な活動ができるよう継続的な改善を行うことで、ステークホルダーへの環境価値の創造・提供を目指しています。

中長期視点での環境課題への対応

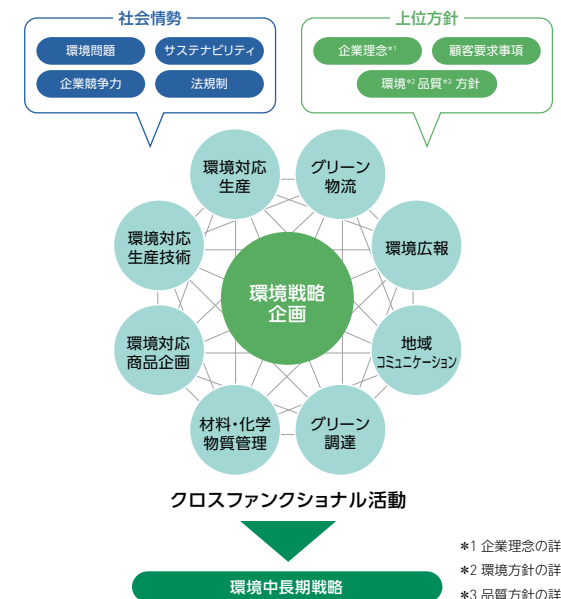
地区ごとの環境マネジメントを行う、EMSの推進と並行して、中長期の環境課題への取り組みも進めています。社会情勢や事業環境の変化、企業理念や各種上位方針などとの関連において、ジャトコが取り組むべき環境課題について、現状把握、リスク分析、必要なアクションの検討を行い、実行につなげます。個々の課題について、ジャトコ全体を俯瞰しながら、社内を横断した企画・マネジメントを実施しています。また、海外拠点での環境活動の企画・マネジメントなども連携しながら推進しています。

ジャトコでは環境課題への取り組みを8つの機能に分類し、それぞれの機能軸が連携して環境マネジメントを展開しています。特に、「脱炭素」「資源循環」「環境負荷低減（汚染防止）」は、最重要課題として、中長期の取り組みも強化しています。「地球温暖化防止」「環境保護」「資源の有効活用」という3つの分野での取り組みを強化しています。

ジャトコの環境活動概念図



ステークホルダー お客さま、従業員、ビジネスパートナー、地域社会など



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

環境マネジメント

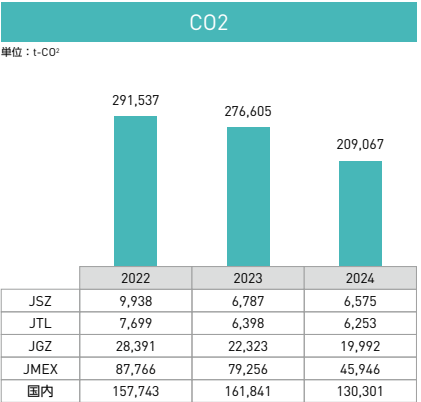
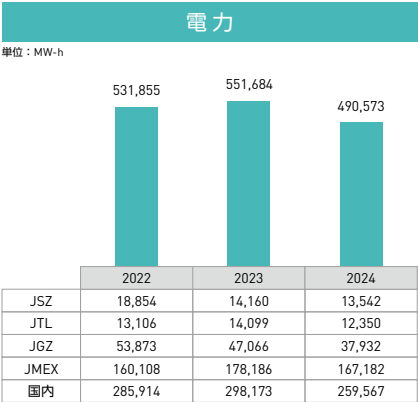
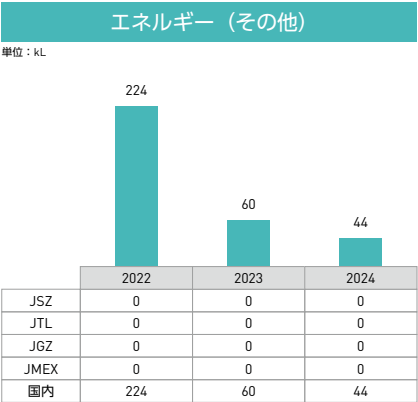
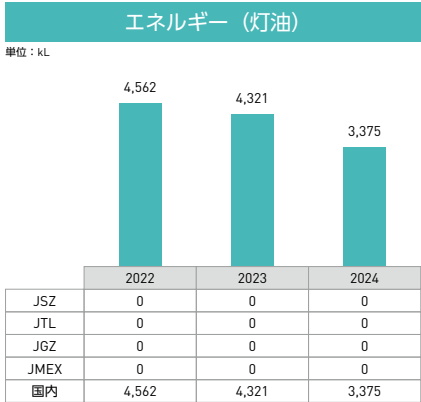
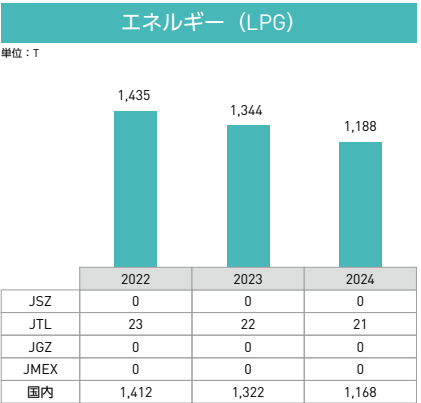
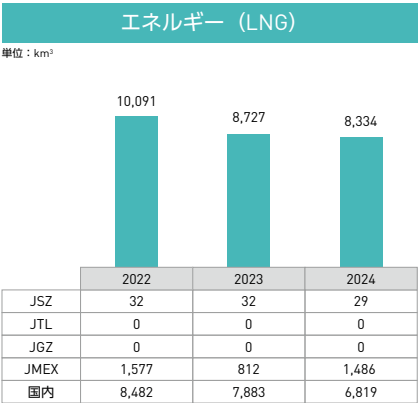
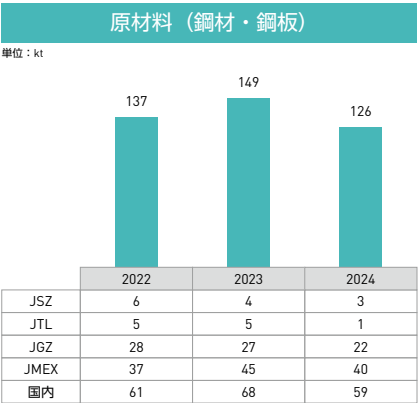
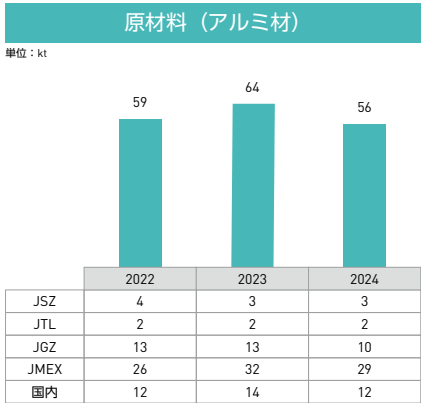
2024年度の環境実績 ※日本国内事業活動における



環境マネジメント

マテリアルバランス

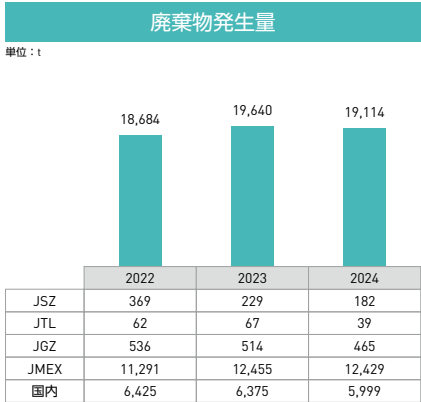
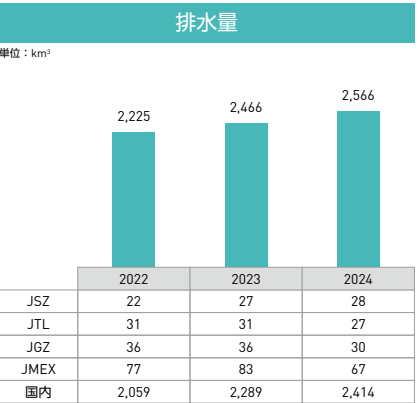
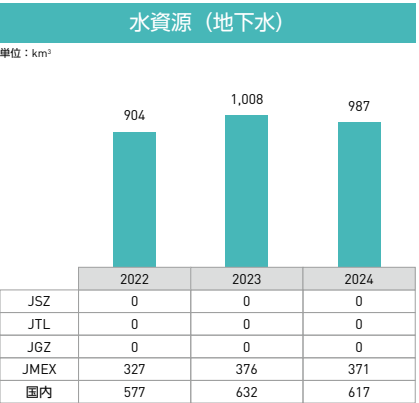
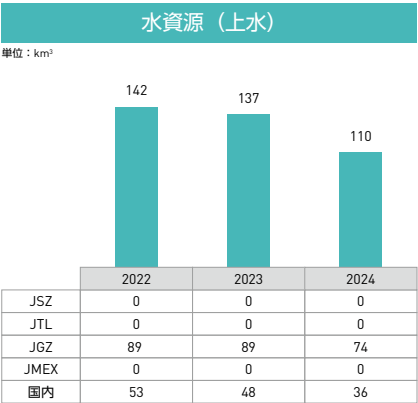
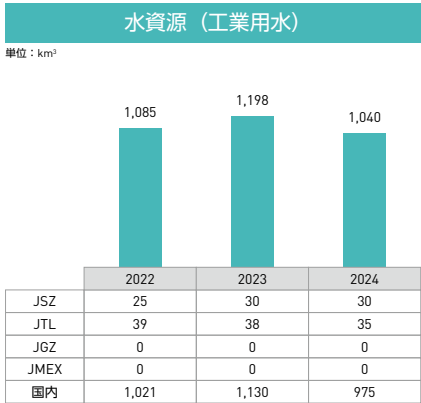
ジャトコは循環型経済形成を目指し、適切な資源の使用と排出量低減に取り組んでいます。



*国内：ジャトコ、ジャトコ プラントテック、ジャトコ ツール

環境マネジメント

マテリアルバランス



*国内：ジャトコ、ジャトコ プラントテック、ジャトコ ツール

環境マネジメント

PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減

ジャトコは年度ごとに環境負荷低減のための取り組み事項を「環境目標」として掲げ、その実現を目指しています。また、毎年度の取り組み結果を踏まえ、次年度以降の目標を設定することで、環境パフォーマンスの継続的改善を図っています。2024年度は環境関連の重大な法令違反や条例違反による行政処分は受けていませんが、社内で必要な措置と検討を行いました。

環境目的	項目	2024年度目標	2024年度実績	評価	2025年度目標
環境マネジメントシステムの継続的改善	定期的レビュー実施	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）	○	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）
	内部環境監査員の養成	必要人員	2名	○	必要人員
法規制の遵守、環境問題の未然防止	行政、官公庁からの指摘	指摘件数 0件	指摘件数 0件	○	指摘件数 0件
	著しい環境側面の維持管理	定期見直し実施率 100%	定期見直し実施率 100%	○	定期見直し実施率 100%
	環境法関連教育の実施	環境教育の実施（2回）	環境教育の実施（2回）	○	環境教育の実施（2回）
	環境事故防止	AB ランク事故 0件 C ランク事故 1件	AB ランク事故 0件 C ランク事故 3件	×	AB ランク事故 0件 C ランク事故 1件
脱炭素	売り上げ当たり 換算 CO ₂ 排出量	45.3t-CO ₂ /億円	49.2-CO ₂ /億円	×	42.9t-CO ₂ /億円
資源の有効活用	廃棄物削減の推進 廃棄物総発生量の削減	2.100 kg/台	2.549kg/台	×	1.982kg/台
環境負荷低減に向けた技術開発	環境配慮設計 [環境保全、自動車燃費改善への貢献]	各商品別 QCT KPI の目標達成率 100%	各商品別 QCT KPI の目標達成率 100%	○	各商品別 QCT KPI の目標達成率 100%
	商品の環境負荷物質管理と削減	環境法規制変更時の商品適合・維持 100%	環境法規制変更時の商品適合・維持 100%	○	環境法規制変更時の商品適合・維持 100%

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

脱炭素化の推進



メッセージ

最近の異常気象や大規模災害の頻発により地球温暖化の深刻さを実感する中、ジャトコではカーボンニュートラルの実現を全社の重点課題と位置づけCO₂削減を全社KPIに設定して取り組んでいます。

具体的には、生産活動の中で化石燃料への依存を減らすために再生可能エネルギーの導入拡大や電力利用の効率化に注力するとともに、開発やアフターセールスでは電動車など製品のライフサイクル全体でのCO₂排出低減にも配慮しています。

経済活動の活発化と個人の自由・利便性の追求がエネルギー需要を増加させる中でCO₂削減していく、このジレンマを解決することは地球環境にとって不可欠です。今後も社会の期待に応え、責任を持ってその使命を果たしてまいります。



企画部門VP
甲斐 啓之

カーボンニュートラルへの取り組み

ジャトコは、2050年までにバリューチェーン全体でカーボンニュートラルを実現するため、「ライフサイクル全体」「生産」「商品開発」「環境活動」の4つの領域に取り組んでいます。

ライフサイクル全体での取り組み

原材料調達からリサイクルまでの環境影響を評価し、CO₂排出削減に努めます。



生産における取り組み

デジタルトランスフォーメーションと革新技術によりスマートファクトリーを実現し、省エネルギーや再生可能エネルギーの導入によってCO₂を削減します。



商品開発における取り組み

既存商品の効率向上や次世代自動車向けの新商品開発を進め、CO₂排出の低減に寄与します。



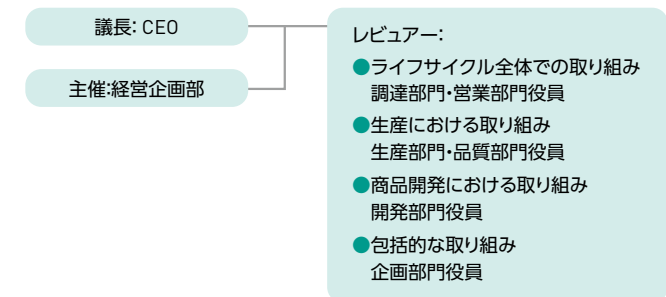
環境活動など包括的な取り組み

地域やNPO法人との協働による環境活動など包括的な取り組みを強化し、よき企業市民としてもCO₂削減に責任も果たしていきます。

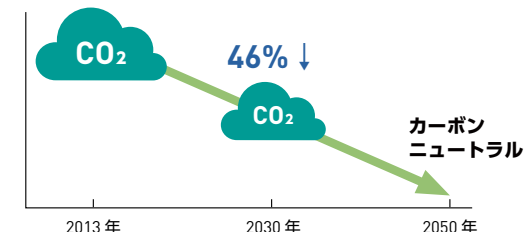


カーボンニュートラル・ステアリング・コミッティ

カーボンニュートラル実現に向けた戦略策定や進捗確認のため、4つの領域の各担当役員が参加し、CEOを議長とし支援・意思決定による迅速な課題解決と全社での活動の活性化を目指しています。



2030年までにCO₂排出量
46%減*を目指す *起点より



2024年度 CO₂排出量実績（グローバル）

単位：t-CO₂

拠点	Scope1	Scope2	計
国内	27,061	103,240	130,301
海外	3,326	75,440	78,766
計	30,387	178,680	209,067

脱炭素化の推進

ライフサイクル全体での取り組み

サプライチェーン領域（調達）

ジャトコは、サプライチェーン全体でのCN達成に向けて、Scope3（カテゴリー1）におけるCO₂排出量の見える化を推進しています。

私たちは、取引先様であるビジネスパートナーとの情報交換の場を設けることで、お互いの取り組みを共有しながら活動を促進しています。サポートが必要なビジネスパートナーには、随時お話を伺う機会を設けており、共に問題解決に向けた取り組みを行っています。

ジャトコはSBT 認証取得に向けて、ビジネスパートナーと協働しながら環境改善を進め、CO₂排出量削減に努めています。持続可能な社会の実現に向けて、私たちは引き続き努力してまいります。



ビジネスパートナーとの情報交換の場

サプライチェーン領域（物流）

ジャトコの部品輸送ではGX（グリーントランスフォーメーション）としてCO₂排出量削減に取り組んでおり、2013年から2024年までに11%を削減しました。

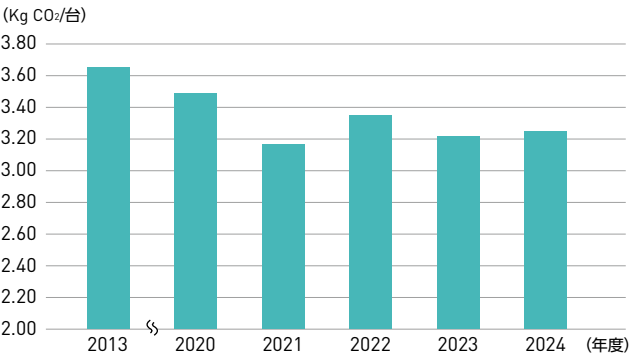
部品輸送に伴うCO₂排出量を削減するために、日本国内のお客さまの理解を得ながらモーダルシフトを推進しています。

具体的には、2009年度より、広島方面（約780km）からジャトコの生産拠点がある静岡県までの調達部品の輸送を、トラックから鉄道輸送に切り替えました。この結果、83.3%のCO₂削減効果をあげることができました。

また、2019年9月よりジャトコ富士地区から京都八木地区へのジャトコ生産部品の輸送にダブル連結トラックを導入し、高積載率での輸送を行うことによりCO₂削減に繋がりました。

今後もモーダルシフトや積載効率アップにより環境にやさしい部品輸送に取り組んでいきます。

輸送におけるユニット当たりのCO₂排出量



2024年度の輸送におけるCO₂排出量



物流からのCO₂排出量

	単位	2022	2023	2024
合計	t-CO ₂	4,166	4,344	3,795
インバウンド	t-CO ₂	2,824	2,834	2,508
インターナル	t-CO ₂	1,262	1,422	1,223
アウトバウンド	t-CO ₂	80	88	64

荷量比率

	単位	2022	2022	2024
トラック	%	94.0	94.3	94.3
鉄道	%	6.0	5.7	5.7



鉄道輸送



ダブル連結トラック
 写真：(株) バンテック提供

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

脱炭素化の推進

生産領域での取り組み

熱処理炉 寄せ止め停止

約1,659t-CO₂/年

工場の熱処理工程では、浸炭焼入れ焼戻し処理に関して、各炉の負荷率管理を行い、効率の悪い従来のガス浸炭炉を停止させて、真空浸炭炉への寄せ止め移行を進めております。

炉の効率的な稼働による CO₂ 排出量削減に取り組んでいます。



富士2・3・4・A地区 蒸気最適供給

約1,081t-CO₂/年

富士2・3・4・A地区の蒸気は、2地区動力棟のボイラーにより一括で供給しているため、蒸気配管長は全体で約7km、最大8.4GJ/hの配管放熱ロスが発生してしていました。

今回4地区へ専用に個別ボイラーを設置することにより、2地区からの蒸気配管を撤去して、配管放熱ロス低減を図りました。



富士3地区鋳造工場 溶湯運搬寄せ止め

約820t-CO₂/年

富士3地区では、各工場毎(第2鋳造・第3鋳造)に溶解炉があり、溶かしたアルミ(溶湯)はそれぞれの工場内でのみ使用していました。

今回ポット等の必要な機材を導入して、第2鋳造の溶解炉で溶かした溶湯を、第3鋳造まで運搬することを可能とすることで、寄せ止めによる効率化を図りました。



八木地区構内駐車場 ソーラーカーポート

約1,659t-CO₂/年

ジャトコでは再生可能エネルギー導入として、京都八木地区の構内駐車場へ太陽光 PPA モデル(電気購入契約)にてソーラーカーポートを設置しました。

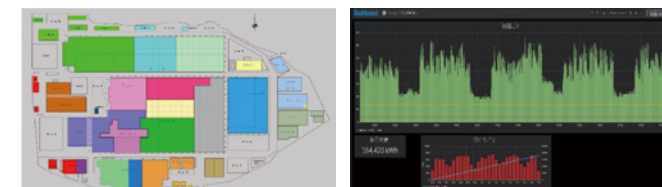
事業所で消費されている電力の約 2.8% を賄える予定です。



電力見える化ダッシュボード

カーボンニュートラル意識向上を目的に、社内ポータルサイトに工場電力使用量の状態が分かる「電力見える化システム」や「CO₂排出量見える化システム」を掲載しています。

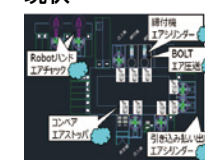
全従業員が各地区の電力使用量を手軽に確認できるため、一人ひとりの自発的な節電活動に繋がっています。



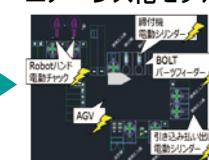
エアーレス化モデルライン

富士4地区の新ラインでは、プロジェクト段階でラインコンセプトにエアーレス化を入れて、設備設計に織り込みました。一部のモデルラインではオール電化を実現し、CO₂排出量70%削減見込みです。現時点でオール電化を実現できたのは、一部のラインだけですが、それ以外でも、エアーレス化というコンセプトを取り入れて部分採用をしています。

現状



エアーレス化モデルライン



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジヤトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

脱炭素化の推進

開発における取り組み

電動パワートレインX-in-1の共同開発と生産開始

ジヤトコは電気自動車(EV)用の電動パワートレイン「X-in-1」を日産自動車と共同開発・生産し、脱炭素に貢献しています。

包括的な取り組み

日産リーフバッテリー再利用、太陽光発電外灯

富士1地区・本社地区外灯設備を太陽光仕様へ変更し、商用電力ゼロによりCO₂ゼロ化しました。

CO₂削減効果は0.8t-CO₂/年・台となっており、蓄電池は日産リーフの使用済みバッテリーを再利用しサーキュラーエコノミーにも貢献。非常時には着脱可能で災害用ポータブル電源(容量140,000mA)として使用可能となっています。



富士本社に設置中の太陽光発電外灯

富士市ゼロカーボンシティに向けたパートナー協定

2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「富士市ゼロカーボンシティ」実現のため、2023年10月に富士市と「パートナーシップ協定」を締結しました。富士市には温室効果ガス排出量の削減目標や成果を報告しています。また、ジヤトコの活動は、市内の小学4年生向けに配布される地球環境啓発冊子「こどもゼロカーボンチャレンジ」にも掲載されています。



「こどもゼロカーボンチャレンジ」



富士市ゼロカーボンシティ締結式



グリーンカーテンプロジェクトの実施

京都八木地区では、「グリーンカーテンプロジェクト」と題し、工場建屋につける性の植物を絡ませることで、直接日光を遮断。日差しを遮ることで、放射熱の発生と侵入を抑えています。



省電力機器の利用と消費電力の見える化

富士地区の事務棟には会議室のCO₂排出量が一目で分かる工夫を凝らし、省エネ意識を向上させる活動を進めています。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

クルマの電動化への貢献



独自技術を生かした電動化商品の投入

ジャトコはCVT・ATのメーカーとしてこれまで1億3,000万台以上の製品を世に送り込んできました。一方で、10年以上前から電動化時代に備えてノウハウを積み重ねてきました。2010年に世界で初めて1モーター2クラッチシステムを採用したFR ハイブリッド車用トランスミッション、JR712Eを開発。さらに、電動車向けのモーターやギアボックスの供給も開始しました。2025年からはギア・モーター・インバーターを一体化したX-in-1の市場投入のため、英国に欧州では初となる生産拠点の設立、富士地区での生産ラインも立ち上げました。今後も競争力のある電動パワートレインの開発・製造により、脱炭素社会の実現に貢献します。



イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

クルマの電動化への貢献

2030年までの電動車両向けユニット年産500万台へ着実に準備

ジャトコは電動車両向けユニットの年間生産台数を2030年に500万台にする目標を掲げています。2025年度より、日産自動車様と共同開発してきた電動パワートレイン「X-in-1」の量産が始まります。我々は、この量産立ち上げを着実に行之、性能と品質で日産車の競争力と魅力を上げることに貢献していきます。

電気自動車用：3-in-1

「3-in-1」は2025年度に市場投入予定の新型「日産リーフ」に搭載され、効率的なエネルギーマネジメントや優れた走行性能を実現します。

3-in-1
(電気自動車用)



日産リーフ

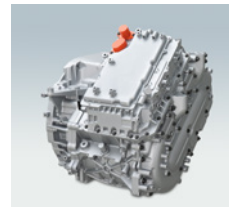


画像出典元 日産自動車株式会社

e-POWER用：5-in-1

「5-in-1」は、第3世代e-POWERの高い性能を担う中心的な電動ユニットで、2025年度後半には欧州の「キャシュカイ」、2026年度には北米の次世代「ローグ」、日本市場向け新型「エルブランド」に搭載予定です。

5-in-1
ハイブリッド(e-POWER)用



第3世代e-POWER搭載車ラインナップ

「キャシュカイ」
(2025年9月欧州市場で発売予定)



新型「エルブランド」



画像出典元 日産自動車株式会社

生産拠点も着々準備中

ジャトコ 英国会社

2025年1月に発表したジャトコ 英国会社は、サンダーランド市に設立され、2026年より英国の日産拠点向けに「3-in-1」の供給を開始予定です。ジャトコ 英国会社はジャトコにとって初の欧州生産拠点になります。



eパワートレイン工場

ステップATを生産していた富士地区の工場を改修し、2025年度から「eパワートレイン工場」として独立させました。この工場は、グローバルなマザー工場として、富士の技術力を世界に展開する重要な拠点となります。



イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

クルマの電動化への貢献

ジャトコ独自開発の超小型 e-Axle

ジャトコはオリジナルの e-Axle の研究開発も進めています。ノートパソコンに隠れるほどの超小型サイズでありながら十分な出力を発生するこのユニットは、業界トップクラスのサイズ効率を誇ります。e-Axle の独自開発において、高出力密度化(小型化)は最重要課題の一つです。多くのお客さまの車両に載せられるサイズであることから、ビジネスチャンスが広がると考えています。

高出力密度化に（小型化）挑戦

e-Axle の高出力密度化は、単なる小型化、つまりサイズダウンにとどまらず、車両全体の軽量化や資源の効率的活用を実現し、車両設計における自由度を大幅に向上させます。電気自動車への移行に伴い、バッテリー搭載による車両重量の増加は避けられません。この重量増のため車両タイプによっては必要な駆動力の増大が求められ、前後両軸に e-Axle を配置する必要性が高まります。e-Axle の高出力密度化は、この課題のソリューションにもなります。



次世代技術者の育成も視野

さらに、次世代技術者の育成も重要な視点として、この試作ユニットを実車に搭載し、実走行テストによる性能検証の機会を積極的に設けています。ユニットテストカーには、前後両軸にユニットを搭載。実践的な取り組みを通じて技術者が経験を積むことで、将来を見据えた高度な技術力を確実に蓄積し続けています。



ラインナップ拡充目指す

このように、電動化としては、まず X-in-1 で電動化事業をしつかりと芽吹かせてメインボリュームゾーンの車両をカバーし、中長期的には小型化の技術開発などを通じて将来的なラインナップ拡充を目指します。今後も引き続き強力に電動化を推し進めていきます。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

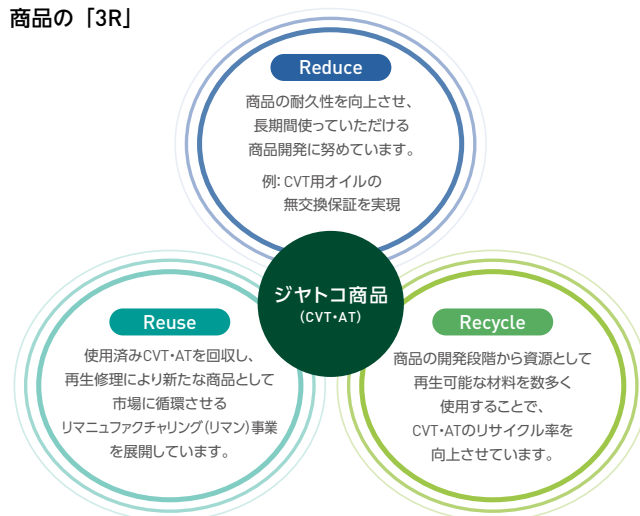
循環型経済の構築



ジャトコのサーキュラーエコノミーの考え方

ジャトコはモノづくり企業として、限りある資源を有効に活用することが大切だと考えています。以前より、使用済みとなった当社製 CVT・AT を回収し、再生して再利用するリマニュファクチャリングを推進してきました。今後は、さらなるサーキュラーエコノミー推進にも力を入れていきます。具体的には、3R (Reduce・Reuse・Recycle) のアプローチを軸に取り組みを進めています。商品を長く使っていただけるように設計開発することで廃棄物を減らし (Reduce)、市場から回収された製品の中からまだ使える部品は再生利用し (Reuse)、再生可能な材料を活用して新たな資源へ再生化 (Recycle) することで、資源依存の最小化と廃棄物の削減を実現し、製品および事業活動全体においてサーキュラーエコノミーの効果的な仕組みの構築に取り組んでいきます。

商品の「3R」



廃棄物対策への取り組み

分別の徹底で廃棄物を再資源化

ジャトコでは、資源を効率的かつ持続的に利用するため、徹底した分別による再資源化に努めています。廃棄物処理方法として単純焼却処分や埋立処分を打ち切り、マテリアルリサイクル (再生利用) やサーマルリサイクル (燃料化) を実施することにより、日本国内の事業所では生産段階における廃棄物の再資源化率100%を達成しています。

再資源化率

100%達成

範囲：日本

全員参加による廃棄物削減活動

ジャトコ従業員は常に、3Rの視点で廃棄物削減に取り組んでいます。

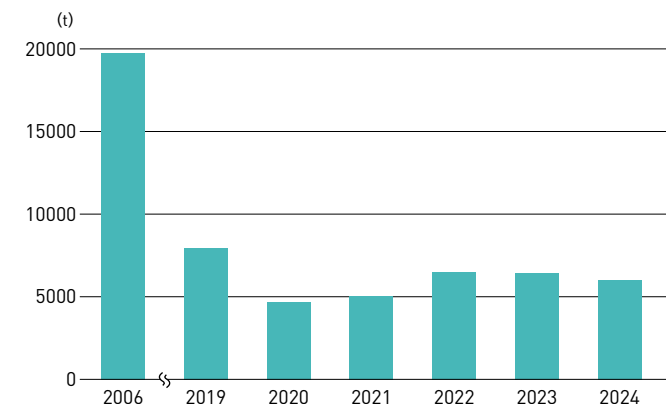
各事業所で廃棄物総量削減の目標を立て、各職場が実施した取り組みのアイデアを登録することで、廃棄物削減情報の共有化と職場ごとのモチベーションの向上を図っています。2024年の廃棄物量は、5,999tで2006年に対し69.7%削減されました。

2024年度の廃棄物総量

69.7%削減

(2006年度比)

廃棄物発生量実績

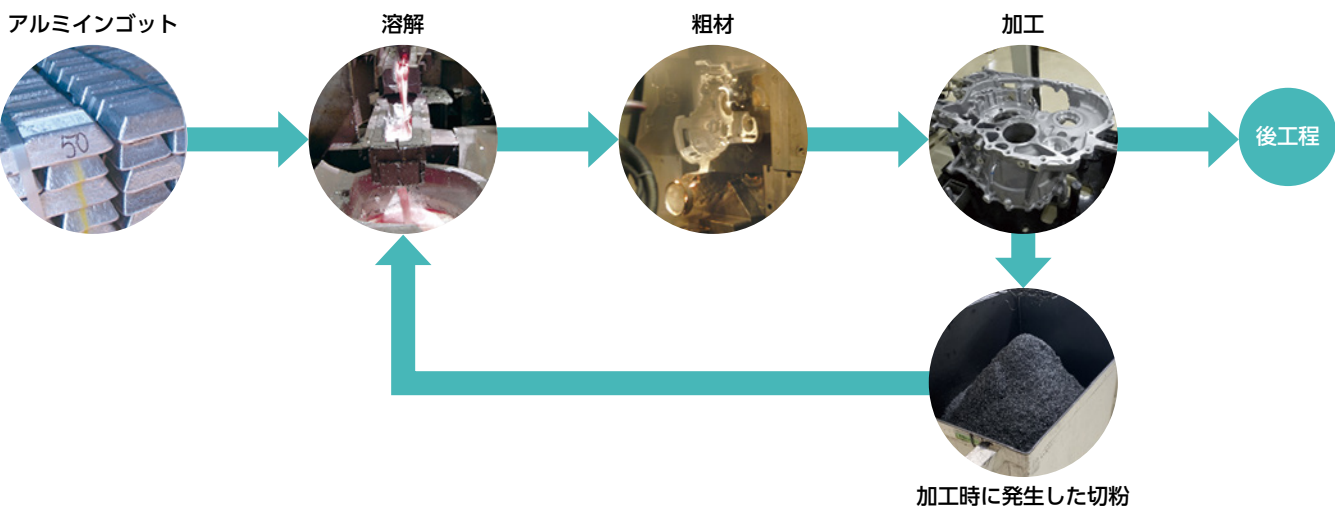


循環型経済の構築

アルミ廃材のリサイクル

生産過程においてアルミ粗材を切削加工する際、アルミの削りカス=切粉が発生します。

ジャトコではこれら発生した切粉を自社で回収し再度溶解、不純物を取り除いた後、粗材加工工程を経て製品として再利用しています。アルミ切粉をリサイクルすることで、新規資源投入の削減、廃棄物削減だけでなく、省エネルギー・温室効果ガス（CO₂）排出量の削減に貢献しています。



荷姿改善・梱包資材の再利用

トラック台数削減につながる積載率向上対策として、購入部品の納入荷姿の改善を行っています。

また、従来、商品の移動・保管に使用している樹脂製容器や商品保護のために使っている樹脂製緩衝材類は、劣化や商品の変化により使えなくなった場合、産業廃棄物として処分してきましたが、2004年以降、ほかの商品への再利用を開始。また、樹脂製品製作会社にも協力いただき、原料としてリサイクルするなど、廃棄量の削減を進めています。



輸送用樹脂製容器類の再利用・リサイクルの推移	
年度	t
2018	40.1
2019	34.2
2020	39.5
2021	28.9
2022	29.6
2023	347.0
2024	51.0

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

循環型経済の構築

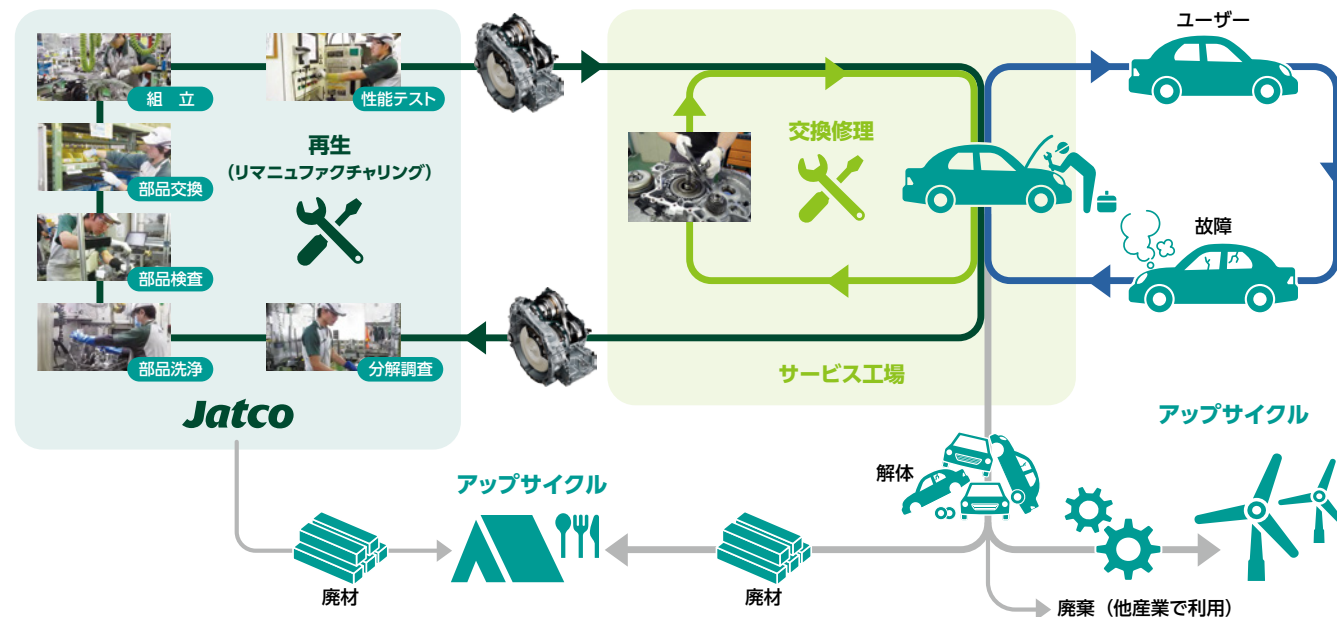
ユニット修理・再生への取り組み

ジャトコは、資源依存の最小化、廃棄物削減の観点から、市場に出たユニットの修理技術の開発や、リユース事業に取り組んできました。当社製 CVT・AT が故障した場合は、まず故障部位を特定し可能な限り、その場で故障部品の交換修理を行います。

部品交換が困難な場合は、ユニットを回収し、分解調査、洗浄、検査、交換、組立、性能テストを経て、新品と変わらない品質のアフターサービス部品として再生し、お客さまに提供します。

また、CVT・AT としての再生が困難なユニットは、材料としての再利用を進めます。

これらの活動でアップサイクルを含めた、ユニットや部品の再利用の更なる可能性を探索し、サーキュラーエコノミーの効果的な仕組みの構築に取り組んでいきます。



2023-24 年度グローバル出荷実績

修理用部品： 53,000 台

再生ユニット： 91,000 台

アップサイクルの取り組み

中型陸上風力発電機における発電用増速機（ナセル）

使用済み日産リーフのモーターやインバーターなどを使用。

ゼファー社と共に2025年の実用化を目指す。



発電用増速機（ナセル）

アウトドア用エコナイフ「ARUNEMO」

自動車用トランスミッション製造時に出る端材を活用して製作。

富士市を拠点とする木材と革製品のメーカー2社とも連携し、地域活性化にも貢献。



エコナイフ「ARUNEMO」

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

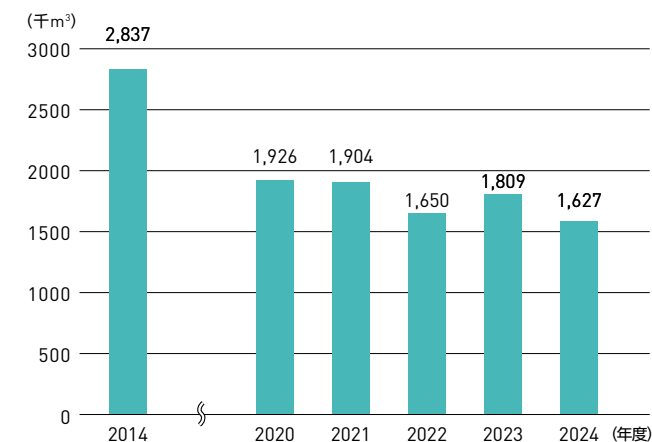
大気・水資源・土壌保全



毎年2%の水削減が目標

ジャトコは工場での生産に伴う水使用量を把握し、削減への取り組みを進めています。親会社である日産自動車株式会社が策定した「ニッサン・グリーンプログラム」に則り、地球規模の水枯渇対策として2014年度から本格的に水使用量の削減に取り組んでいます。毎年2%削減することを目標に置き、2024年度は2014年度比42.7%の削減を実現しました。

水使用量



高水準の浄化を継続的に維持

排水にあたっては国や市町村の基準を遵守するのはもちろん、それ以上に厳しい社内基準を設けて浄化を実施しています。各地区の特徴に応じて、活性炭吸着法、限外ろ過法、高速凝集沈殿法、接触酸化法、砂ろ過、加圧浮上などの施設を組み合わせることで、高水準の浄化を継続的に維持しています。

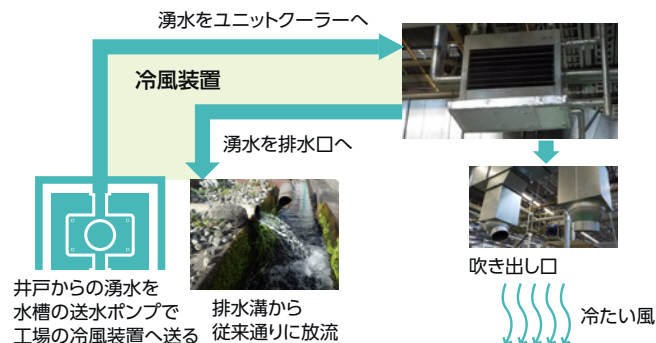
また、国内の各事業所では水道の蛇口に節水バルブを取り付け、水使用量削減に取り組んでいます。



水処理設備

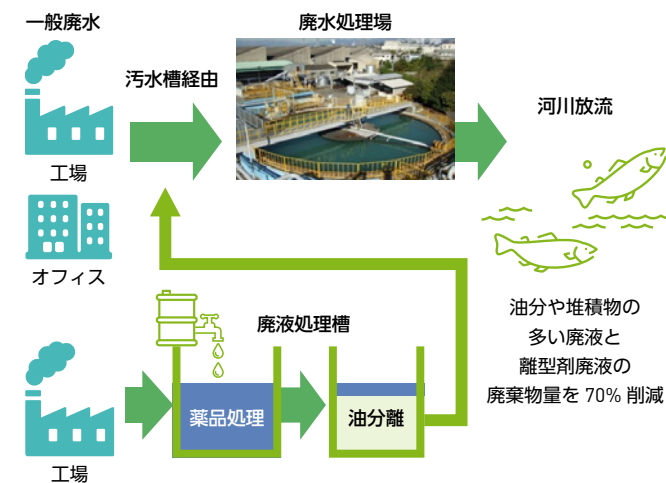
富士山湧水クールファン

富士山麓に位置する富士第1地区工場は敷地内に湧水がわいています。従来は排水溝から放流していましたが、湧水の温度が1年中15-17℃を維持するため、工場内の冷風装置を経由し、天然のクーラーとして活用しています。



工場の廃液を削減

工場やオフィスから排出される污水は、社内の水処理施設に送られ安全な水に処理してから河川に放流しています。しかし、油分や堆積物の多い濃廃液や離型剤廃液は水処理施設で安全な水質に処理できないため、廃棄物として外部で処理していました。そこで使用薬剤や浄化方法の見直しを繰り返し行い、濃廃液と離型剤廃液の社内での処理が可能となりました。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

大気・水資源・土壌保全

冷却水循環装置の導入で排水を再利用

ジャトコでは、生産設備の冷却や洗浄・切削油の希釈に使用している水の浄化のため、冷却水循環装置を導入し、排水の再利用を推進しています。



鋳造設備の冷却水循環装置

持続可能な水資源の大切さを学ぶ

一般公開しているジャトコ工場見学では、排水浄化の重要性や仕組みについて子供たちに学んでもらう場を設けています。実際のデモンストレーションを交えながら、子供たちの学びを深め、若い世代に持続可能な環境についての理解を促し、環境保護意識を育てることを目指しています。



小学生向け工場見学での実験の様子

安全・安心に配慮した汚水の輸送方法

ジャトコでは汚水の発生を減らすとともに、発生した汚水を処理施設へと輸送する際にも安全性に配慮しています。部品を洗浄する設備には、水の汚れを取り除き、繰り返し再利用可能な工夫が施されており、数ヵ月使用した後にローリー車では処理施設へと輸送しています。

また、地中に埋設された配管や側溝で汚れた水を処理施設に送る方法は経年変化の影響を受けやすく、信頼性に問題があると考え、従業員の目が行き届く地上に露出した配管などで処理施設まで運ぶ方法へと改善を進めています。



廃棄物専用運搬車両による処理施設への運搬

大気・水資源・土壌保全

化学物質の管理活動

揮発性有機化合物の管理

揮発性有機化合物（VOC）対策は、一般社団法人日本自動車部品工業会（JAPIA）の行動計画に基づき、2010年度までに全VOC 排出量を30%削減（2000年度比）することを目標とした活動を実施しました。その結果、2006年度までに98%削減することができ、2010年度には99%を達成、2024年度も99%を削減しました。



土壌汚染・地下水汚染対策

土壌・地下水汚染対策として、有機塩素系溶剤の使用を全廃し、現在は過去の有機塩素系溶剤の使用履歴と環境への影響をモニタリングしています。

有害大気汚染3物質の削減

有害大気汚染3物質^{*1}の排出量については、2006年度に100%削減を達成し、2024年度も維持しています。



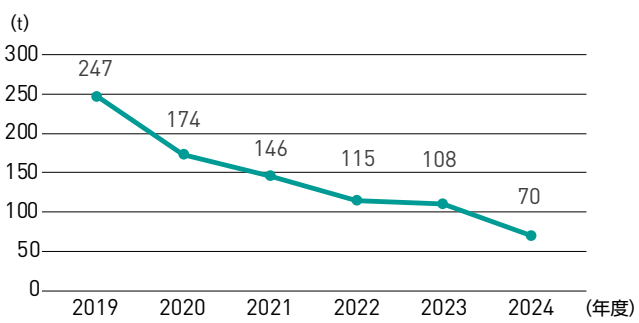
PRTR^{*2}対象物質の管理

ジャトコが取り扱う、PRTR 対象化学物質の国内生産拠点合計の排出量と移動量は下表の通りです。加工工程の洗浄液の常温化や、組立工程の洗浄液を湯洗浄化により、PRTR 対象物質含有の使用量は年々減っています。

区分	科学物質名	取扱量	排出量			移動量
			大気	水質	土壌	
特定第一種	ダイオキシン	0	21.3	0	0	0
	ベンゼン	0	1	0	0	0
第一種	エチルベンゼン	0	0.5	0	0	0
	キシレン	22,007	8.6	0	0	0
	トリメチルベンゼン	40,012	8.8	0	0	0
	ノルマル-ヘキサン	0	28	0	0	0
	トルエン	5,100	100	0	0	0

単位：kg（ダイオキシン類はmg-TEQ/Nm³）
^{*1} 有害大気汚染3物質：ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン
^{*2} PRTR：Pollutant Release and Transfer Registerの略。特定化学物質の環境への排出量の把握 および管理の改善の促進に関する法律

PRTR対象物質総取扱い量（t）



大気汚染軽減の取組み

ジャトコでは熱処理連続炉へのリジェネバーナー採用を進めております。リジェネバーナーは、燃焼過程で発生する熱エネルギーを効率良く回収し、再利用する装置です。この技術を連続炉へ取り込むことで、エネルギーの消費を抑えるだけでなく、排出される煙やガスの温度を下げ、結果として有害物質の排出量を減少させることができます。私たちは、環境保護と経済成長を両立させるため、今後も持続可能な技術の社内推進を進めて参ります。





事業

モノづくりを活かした モビリティ・イノベーション

移動の可能性を広げるソリューション

エネルギー効率の追求



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

移動の可能性を広げるソリューション



メッセージ

ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を広げる」というコーポレートパーパスの実現に向け、自動車以外の新たな事業領域への展開を加速しています。

電動化の進展により、従来のCVTやATとは異なる収益構造への対応が求められる中、事業領域を自動車から“モビリティ”に広げ、新事業に取り組み、迅速な商品化と市場投入による収益化を図るため、より強力な推進体制を構築しています。

私たちが長年培ってきた精密加工技術や制御技術を活かし、電動アシスト自転車、電動バイク、介護用電動車椅子、風力発電向け商品など、多様な分野での事業化に取り組んでいます。特に自転車分野では、コンパクトで高性能なドライブユニットの開発を進め、「しっかりとしたアシスト、スムーズでシャープな変速、低騒音と高効率」を実現し、ホダカ様との協業でお客様へお届けできることに大きな手応えを感じています。

新規事業でも社会課題の解決とお客様への価値提供を通じ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



コーポレート事業
推進部門長
常務執行役員
小川 英二

「モビリティの可能性を広げる」アントレプレナーシップの醸成

コーポレートパーパスに向かって継続的に成長していくために、ジャトコは新しい価値や事業を創造し、リスクに挑戦していかねばなりません。その姿勢がアントレプレナーシップです。2022年度より、経営企画部を中心にアントレプレナーシップ醸成のためのビジネスコンテストや全社イベントなどを実施しています。ビジネスコンテストでは、グローバルの従業員から新規事業創出に向けたアイデアを募集。100件以上の応募に対し、経営層も交えて内容の検討を行っています。個人の柔軟性や変化への適応力が向上し、新たな機会や挑戦に対して積極的に取り組むことや、主体的に考えて行動し、自らのアイデアを実現することで、個人の成長や自己実現を追求することが狙いです。ビジネスコンテスト優秀案件は、社外イノベーションプログラムに参加し、アイデアを磨いて最終的にビジネス提案を経営層に実施しています。その結果、推進者とともに新規事業推進部へ業務を移管し、事業化に向けた活動を継続している案件もあります。

磨いたアイデアの一部は市場で使って頂き、実証実験まで進んでいます。市場・顧客の声を得て、事業化推進を進めます。



電動アシスト自転車用ドライブユニットの開発チーム



2023年度のビジネスコンテストの参加メンバー

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

移動の可能性を広げるソリューション

電動バイク用2速自動変速インホイールモータードライブユニットの開発

中国の電動バイク用ドライブユニットの有力メーカーである九洲科技と共同開発。2速の自動変速機とモーターを一体化したこのユニットは最大トルク250Nm、最高時速100km/hを超え、30度という厳しい勾配を上ることができます。

2025年度中の市場投入を目指しています。



2速自動変速インホイールモータードライブユニット

電動アシスト自転車用ユニットの開発

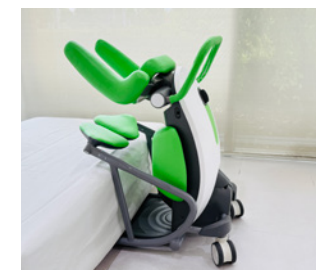
独自技術でアシストモーターと変速機構を一体化したドライブユニット。バッテリー残量や航続距離のモニタリング、アシスト量の変更などができるスマホアプリの開発も行っています。2025年2月にはホダカ株式会社と量産に向けたMOU（覚書）を締結しました。2025年度中の日本市場投入を目指しています。



2-in-1リアハブユニット

移乗機構付車いすの開発

開発中の移乗機構付車いすは移乗と移動の機能を一つにしたモビリティです。介護する側、介護される側、両方が抱えている介護現場の課題に対し、人間工学を適用したロボット制御技術により、スムーズな移乗を実現し、介護の現場を笑顔にする商品の開発を進めています。



移乗と移動の機能を一つに

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

エネルギー効率の追求



ジャトコは、パワートレインの専門メーカーとして、よりエネルギー効率の高いユニットを提供すべく、常に技術を磨き、環境性能と運転性能を両立させた商品を提供してきました。今後市場投入する電動パワートレインにも、この技術をしっかりと活かしていきます。

Jatco CVT-XS

環境性能と運転性能を飛躍的に進化させたCVT

Jatco CVT-XS は当社がトランスミッションの専門メーカーとして技術の粋を集めた集大成となる商品で、環境性能と運転性能が飛躍的に向上しています。従来トランスミッションと同サイズでギアレシオを約13%拡大すると共に、メカオイルポンプを小型化することによってメカニカルロスを低減しました。

これらの改善により車両の燃費が向上し、米国での温室効果ガス・燃費規制（GHG/CAFE）への対応にも貢献しています。



Jatco CVT-XS

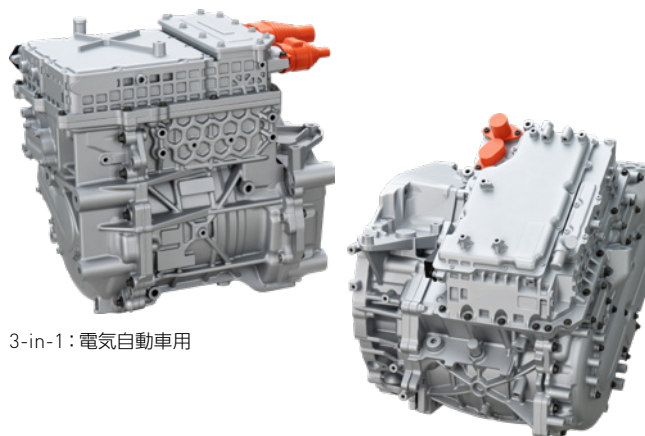
X-in-1

主要部品の共用化とモジュール化を実現した電動パワートレイン

モーターやインバーター、ギアなどの主要部品を一体化することで、小型・軽量の電動パワートレインユニットを実現し、車両のエネルギー効率の向上に貢献します。

また、電気自動車用3-in-1とe-POWER用5-in-1の主要部品の共用化により、ユニットの生産効率を向上させ、生産時のエネルギー効率の向上にも寄与しています。

加えてレアアース使用率1%以下のモーターを採用することで環境負荷を低減しています。



3-in-1：電気自動車用

5-in-1：e-POWER用

高効率 超低粘度減速機油

EVの省電力に貢献する超低粘度油

EVの省電力に貢献できる超低粘度油を開発しました。

この油は、EVシステムの減速機のフリクションを大幅に低減できるため、バッテリー容量を増やさずに航続距離を延ばすことが可能です。

その結果、EVのコスト低減と普及に貢献し、地球温暖化防止につながるCO₂の削減を実現します。





社会

地域社会との共生および発展への貢献

コミュニティの発展

社会貢献活動



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

コミュニティの発展



地域社会のみなさまとともに

ジャトコグループは、地域社会に愛される「よき企業市民」となることを目指しています。企業活動は地域社会とのかかわりの中で営まれるものであり、コミュニティの一員として主体的に社会とかわり、さまざまな形で地域社会に貢献することが重要な責務と考えます。

ジャトコグループの技術やアセットを活かして地域課題の解決に積極的に取り組むことは、「この地域にあってよかった」と思ってもらえる存在となり、企業にとっても有益です。こうした取り組みは、地域と企業が互いに成長・発展していくことにつながります。例えば、自動車用ユニットの技術を活かして電動自転車用ドライブユニットを新たに開発し、地域が抱える観光振興や健康増進などの課題解決にともにチャレンジしています。また、岳南電車「ジャトコ前」駅の花壇を整備し、地域のみなさまに生活の豊かさを提供しています。

複雑化する社会課題に対応しながら、ジャトコグループは常に地域社会との対話を通じた地域活性化や社会・環境課題の解決に貢献していきます。



花咲く*ジャトコ前駅プロジェクト

富士地区：富士市 自転車通勤推進企業 認定

ジャトコは2022年に富士市と自転車を活用した地域課題解決に関する協定を結び、自転車のまちづくりへの活用を進めています。2025年3月に富士市と共に自転車通勤を推進する企業・団体を認定する国土交通省の制度「『自転車通勤推進企業』宣言プロジェクト」の宣言企業の認定を取得しました。従業員の環境意識や健康意識への高まりを促進するだけでなく、富士市が掲げる「富士市自転車活用推進」の観点からも広くまちづくりに貢献していきます。



タイ：静岡県高校生インターシップ受け入れ

ジャトコ及びジャトコタイランド社は静岡県教育委員会主催の国内外で活躍できるグローバル人材の育成を目的とした「高校生海外インターシップ」の活動に賛同し、2024年も県内の高校生6名のインターシップ受け入れを行いました。7月に富士地区にて事前研修を行い、8月にタイへ渡航し現地メンバーと交流やタイの文化に触れる機会を設けました。ジャトコはグローバル人材育成や企業の魅力を知る機会を今後も支援していきます。



富士地区：自治体及び地域企業間交流（火曜会）

「火曜会」とは富士市および市内企業が近況報告や情報共有をする場として長年開催している交流会です。2025年6月はジャトコ主催で富士市及び市内企業13社が集まり、富士市みらい子供部から富士市が行う少子化対策などのご説明をいただき、参加企業との活発な意見交換を行ったり、ジャトコのCVT工場やレタス工場を見学など行い、交流を深めることができました。



メキシコ：大学・専門学校教育機関受け入れ

ジャトコメキシコ社では大学や専門学校の学生を招いた工場見学プログラムを定期的実施しています。2024年はアグアスカリエンテス北部工科大学など3校の学校を受け入れました。学生にとっては、理論で学んだ知識が実際の自動車産業でどのように活用されているかを直接体験できる貴重な機会となります。このような産学連携の取り組みを通じて、若手人材の育成と教育機関との関係構築を実現し、地域社会全体の発展に貢献していきます。



社会貢献活動



3つの重点分野「環境」「教育」「福祉」

ジャトコグループの社会貢献活動は、従業員参加型スタイルが多くを占めるという特徴を持っています。

地域社会への貢献の取り組みとして「環境」「教育」「福祉」の3つの重点分野を設定し、実際に従業員が身体を動かす形で活動しているものがほとんどです。そして、各地域や現場で行う活動を通して、活動対象者からダイレクトな反応をもらえることも従業員にとっての大きなメリットとなります。



グローバルで15,307人が参加

ジャトコグループの社会貢献活動はグローバルに行われており、世界中でそれぞれの地域ニーズに合った活動に取り組んでいます。

2024年度は、グローバル全体で15,307人の従業員が参加。「環境」「教育」「福祉」各分野でさまざまな活動を行いました。

活動事例（一例）

分野	参加人数	主な活動事例
日本	6,327	キッズエンジニア（小学生） 教育講座 学校&企業訪問（小・中・高校生） 富士山クリーンルート3776清掃 電動車椅子サッカーサポート
メキシコ	3,533	病院利用者への食料寄付 学校用品の寄付 障がい者支援施設への食料寄付
中国	2,454	大学キャリアプラン講座 地下鉄駅環境保護活動 植樹活動
フランス	80	バッテリーの寄付 ペットボトル・キャンプの寄付 ランニング参加費の一部を慈善団体へ寄付
アメリカ	120	子供たちにおもちゃの寄付 道路の縁石の塗装 食料寄付
タイ	2,160	リサイクルペットボトルから学生用バッグを寄付 宝くじ寄付 グリーンルーフプロジェクト（飲料パック回収）
韓国	633	衣類の寄付 困窮者への無料給食配布 動物支援の為にタオル寄付

社会貢献リーダー メッセージ

私たちジャトコでは「よき企業市民」を合言葉に、環境・教育・福祉の3つの柱を中心とした社会貢献活動をグローバル全拠点で実施しています。

2024年度には延べ15,307名の従業員が何らかの形で社会貢献活動に参加しました。地域のゴミ拾いや川の清掃、フードバンクへの協力、障がい者スポーツ支援など様々な活動を通して、地域の方々の笑顔や参加した従業員の活き活きとした姿を拝見し、私たちの活動の意義を実感しています。そして、今ではジャトコの社会貢献活動はジャトコの文化として大切にすべきものとなっています。

私たちの取り組みが、まちの社会課題解決への意識をさらに高めるきっかけになることを願っています。



社会貢献リーダー
品質保証部門長 常務執行役員
松田 浩

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

社会貢献活動

富士山スポーツゴミ拾い大会

環境 教育 福祉

富士市・鈴川海岸で開催された大会は、ただのゴミ拾いではなく、チームに分かれてゴミの量や種類でポイントを競う“スポーツ”イベントで、今年、地元企業や学校から88チーム・430名が参加する大規模の大会となりました。集めたごみは417kg!粗大ごみ87個!海洋課題を楽しく向きあいます。



参加従業員の声

トレジャーハンターの気分でゴミ探しに夢中になりました。競技後の縁日では無料のかき氷・綿菓子の提供があり、疲れた身体を癒してくれました。また参加したいと思います。

大淵笹場お茶摘みボランティア

環境 教育 福祉

富士山との美しいコントラストが魅力の茶畑ですが、近年は高齢化の影響により、茶畑の存続が危ぶまれている中、富士市・他企業・保存会と協力して茶刈り作業をボランティアとして支援しています。



参加従業員の声

茶袋は10〜20kgと運搬は大変でしたが、保存会の方が用意してくれた新茶の冷たいお茶はとても美味しかったです。毎日、多くの観光客が訪れてくれるので、キレイな茶畑にできて誇りに思います。

キッズエンジニア2024

環境 教育 福祉

小学生を対象に、電気自動車の模型を使って、歯車の仕組みを学び、モノづくりの楽しさを体験するプログラム。完成した模型は、専用コースで走らせ、タイムを何度も計測しながら、最適な歯車の組み合わせを見つけていきます。ものづくりに興味を持った子ども達が、将来、日本を支える技術者になってくれることを期待しています。



イベント参加者の声

・タイムがランキング表示されたので、何度も挑戦したくなり楽しかった。また参加したい。
・いつもは見られない、一生懸命に取り組む息子の姿に感心しました。

電動車椅子サッカー全国大会

環境 教育 福祉

ジャトコが継続してサポートする電動車椅子サッカーの全国大会では、フットガードの脱着を行う「ジャトコピット」や試合運営のサポートなど、大会に欠かせない存在として活躍。障がいのある選手たちが電動車椅子を巧みに操作し、迫力あるプレーに会場は感動に包まれます。



参加従業員の声

北海道〜鹿児島と全国から参加した19チームの選手やご家族から「ありがとうございました」と言っていただきました。役にたっている実感ができてうれしかったです。

給食ボランティア（韓国）

環境 教育 福祉

社団法人ナヌミが主催したソウル駅無料給食ボランティア活動に、韓国外国企業協会(FORCA)の会員企業と共に参加。ホームレスの方々に温かいお弁当を1つ1つ手渡ししながら、地域社会との連帯を強化しています。



参加従業員の声

自分にできる範囲で助け合いの手を差し伸べ、少しでも社会に貢献できたことは、大切な経験となりました。

植樹活動（メキシコ）

環境 教育 福祉

政府と協力し、市内最大のロドルフォ・ランデロス公園で植樹活動を実施しました。社員と家族100名以上が参加し、100本の木を植樹。環境とモビリティの共存を目指すジャトコの持続可能な取り組みで、次世代への環境保護の意志を示しました。



参加従業員の声

多くの緑を次の世代に引き継ぐことで、持続可能な社会に貢献できるし、子供たちに身をもって教えることができ、とても良い活動だと思いました。



人的資本

ダイバーシティの推進と
社員の幸福の向上

ダイバーシティ&インクルージョン

人財育成

労働安全衛生



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ダイバーシティ&インクルージョン



ジャトコのダイバーシティ

時代の変化に対応しながらグローバルにビジネスを展開しジャトコが成長していくために、従業員が大切にしている価値観の一つとしてダイバーシティを位置づけています。多様な価値観を持った従業員が共存し、互いを尊重しながら意見を交わすことで、新しい発想が生まれ、より良い価値をお客さまに提供することを方針とし、さまざまな取り組みを行っています。

働き方の多様性

ジャトコでは、全ての従業員のクオリティ・オブ・ライフ（QoL）向上のため、仕事の生産性の向上と共に、誰もが安心して働き働きと働ける職場環境の構築を目指しています。フレックスタイム制度や、育児・介護・不妊治療など幅広い視点からの家族サポートを目的としたライフサポート休暇、在宅勤務制度、勤務間インターバル制度などを早い時期から導入し、多くの従業員が活用しています。その実績が高く評価され、2015年から、次世代育成支援対策推進法に基づく特例認定（通称：プラチナくるみん認定）を受けています。

※プラチナくるみん…くるみん認定企業のうち、より高い水準の取組を行い、一定の要件を満たした企業のみが、認定を受けることができます。



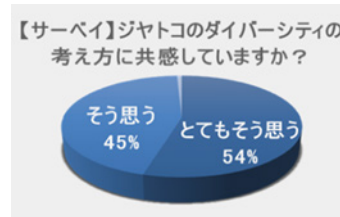
女性の活躍推進

ジャトコはダイバーシティ推進の柱の一つとして、女性の活躍推進に取り組んでいます。管理職に占める女性比率は、2024年度は5.3%で、厚生労働省が発表する産業ごとの管理職に占める女性の割合の平均値を上回っており、さらに7%の達成を目標に掲げて育成に力を入れています。男性従業員の育休取得による育児参加も推奨しており、2024年度の男性育休取得率実績38.6%から、さらなる向上を目指して取り組んでいます。また、製造現場における女性活躍推進では、ダイバーシティラインで、女性がリーダーシップを発揮し、誰もが働きやすい生産ラインを実現しています。



全社の理解促進

ジャトコのダイバーシティ&インクルージョンの考え方や全社の現在の状況について、従業員に広く周知し理解を促進するために、経営層を含む全社を対象としたe-Learning やサーベ이를毎年実施しています。2022年から新入社員にもダイバーシティ研修を導入し、従業員同士でディスカッションする機会を設けています。

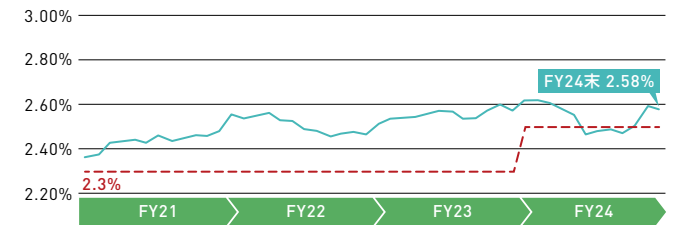


2024年のサーベイでは、回答者の99%がジャトコのダイバーシティの考え方に共感していると回答しています。

障がい者の活躍推進

ジャトコでは障がいを持った多くの従業員が活躍しています。多様な人財が活躍できる職場の設置（ダイバーシティライン、屋内農園など）や特性を生かした配置を行うことで、働き活きと長く働ける環境を提供しています。2024年度の障がい者雇用率は2.58%と法定雇用率を上回っています。屋内農園で栽培されたハーブティや野菜は、昼休みに食堂で使用、販売されており、従業員からも大好評です。

障がい者雇用率推移（FY21～FY24）



レタスなどの水耕栽培（JATCO Green Farm）

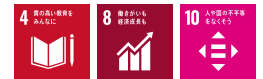


ハーブ栽培・加工（海老名農園）



工場では、障がいを持つ従業員も、他の職場メンバーと一緒に、組立・加工・物流などの作業を担当しています。

人財育成 ～ジャトコの人財育成の考え方～



ジャトコは、従業員一人ひとりを会社を支える重要な「人的資本」として捉え、自身の成長と働きがいを実感できる企業を目指しています。多様性を尊重し、個々の強みを活かすことを大切にしながら、人財育成に積極的に取り組んでいます。

企業理念を体現する共通の価値観として「T-E⁺-A-M」を掲げ、尊重すべき価値観や行動の基準をグローバルコンピテンシーとして明示しています。また、部署や職種ごとに専門コンピテンシーを定め、会社が従業員に求める能力として全従業員に共有しています。

ジャトコでは、従業員がこれらの成果につながる行動特性・スキル・知識を習得できるよう、「階層別教育」と「専門教育」の2本柱による人財育成体系を構築しています。

また、個々の成長段階や役割に応じて必要な力を身につけられるよう、以下のような多様な成長機会を提供しています。

【主な成長機会】

- ・上司との年3回の定期面談による従業員の主体的なキャリア開発の支援
- ・OJTによる職場での支援、および適切な業務アサインによるスキルの習得
- ・職種・役割に応じた体系的な教育の実施(階層別教育、専門教育 等)
- ・QCサークル大会、イノベーションアイデアコンテスト、デジタルコンテストなどの社内イベントを通じた成長支援

従業員は、これらの成長機会を通じて主体的に自己成長に取り組み、ジャトコとともに持続的な成長を実現することを目指しています。ジャトコは、従業員一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことで、人的資本を企業の競争力へとつなげ、持続的な企業価値の創出を図ってまいります。



全社基本技能競技大会の様子

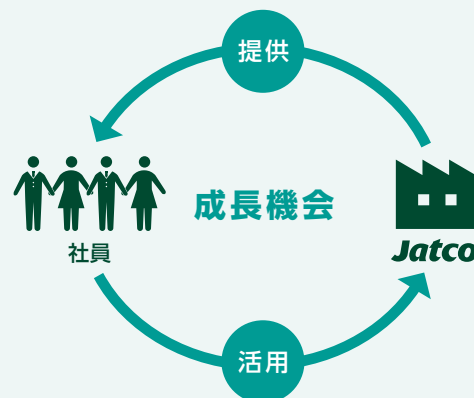
人財開発方針

求める人財像

私たちは企業理念に共感し、その実現に必要なT-E⁺-A-M・マネジメント力・専門力を持って、事業計画の達成と持続的な会社の成長に貢献し続けることを求められています。

社員と会社の相互成長の実現

求める人財像の実現に向け、上司は社員一人ひとりが持つ、多様な背景を尊重しながら、成長機会を継続的に提供する責任があります。私たち社員は、自身の成長に責任をもち、その成長機会を最大限に活用していきましょう。



共通の価値観「T-E⁺-A-M」

T	全員によるチームリーダーシップ 全員が「一歩踏み出す」リーダーに。等身大＋少し背伸び。包容力inclusivenessを。変革を起こせ。	E	アントレプレナーシップ 社会課題に視野を広げ、関心を持って探索する。常識を疑い、自ら徹底的に考え抜く。失敗を恐れず、新しいことに挑戦する。変化を、楽しめ。
E	外界志向・顧客志向 世界を知る。顧客を知る。競合を知る。とにかく外に出る、現場に出る、他部門と交流する。	A	勝利へのこだわり 結果・成果への渴望、こだわり。最後にもう一歩踏み張る。多様性を尊重する。組織の壁を乗り越える。
M	モノづくりの極み 三現主義を徹底し、いまの仕組みをさらに進化させる。品質重視。専門性を高める。周囲にも伝授し、モノづくりを継承させる。		

人財育成 ～事務系・技術系 間接社員の成長の機会～

入社初期からの体系的な人財育成支援

ジャトコでは、新入社員一人ひとりが早期に成長を実感できるよう、入社後の3年間を通じ段階的かつ実践的な育成プログラムを提供しています。また、「フレッシュマンリーダー制度」を導入しており、先輩社員のサポートのもと、配属後の職場で充実した会社生活を送り、安心して業務課題にもチャレンジできるようサポートしています。

1年目：生産実習、部門研修などを通じ、ジャトコで活躍するための基礎知識を習得します。

2年目：社外研修により、アントレプレナーシップマインドの醸成を図り、お客様志向で課題を解決する力を養います。

3年目：レジリエンス研修を通じ、困難な局面を乗り越える力と自ら考え学び続ける姿勢と行動力を育成します。

グローバル共通の役割別実践プログラム

ジャトコでは、各階層への昇格初年度に役割理解と実践スキルの習得を目的とした約1年間の育成プログラムを実施しています。参加者は定期的に集合研修に参加し、同じ階層の他部署メンバーとのグループ討議を通じて悩みや疑問を共有し、役割への理解を深め、従業員同士のつながりや連携の強化を図っています。

また、管理職層においては昇格初年度から2年間にわたり、ビジョン策定・人財育成・面談・評価などの年間プロセスに沿った研修を実施し、実践を重ねながら、管理職としての基礎を着実に身につけていきます。

これらの役割に応じた研修プログラムは「MMP*シリーズ」として体系化し、海外含めグローバルで一貫した育成を実現しています。

* Manager Management Practice

年代層別キャリア研修

何歳になっても成長し続け、活き活きと働いている従業員を増やすため年代別のキャリア研修を実施しています。研修では、自身のキャリアの棚卸しを行いながら自分が本当になりたい姿を描き、その実現のために実現計画を立て、上司に共有しながら行動計画の具体化をしていきます。現在は30、40、50歳を対象に実施しており、今後、他の年代にも拡大していく予定です。

社内公募制度

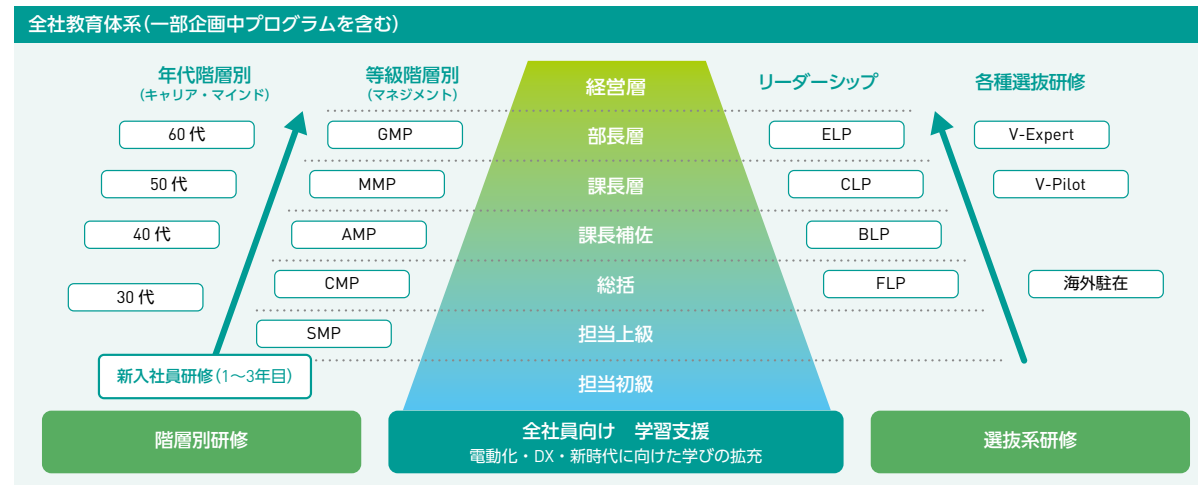
ジャトコでは、従業員が自ら希望する仕事にチャレンジする社内公募制度を設け、自らキャリアを切り拓くことを支援しています。

各部署の募集に対して従業員が応募するこの制度を多くの従業員が活用し、自らの理想とするキャリア形成を実現しています。



新入社員研修の様子

間接員向け教育体系（事務・技術系）



リーダーシップ研修の様子

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

人財育成 ～製造現場における多様な教育プログラム～

変化し続ける環境の中で、ジャトコが、世界中のお客さまに競争力のある高い品質の商品を確実にお届けするためには、モノづくりの現場での技術、技能を常に向上させる必要があります。

教育体系（技能系）



監督者マネジメント研修

現場での経験を積んだ従業員が、職場のリーダーとして行動するための実践力を身につけます。指導者の指導やアドバイスを受けながら、「仕事の標準化」、「仕事の教え方」、「教えたあとの確認」等の管理サイクルを実践形式で学び、人への気付き、感受性や人間力を高め、コミュニケーションスキル・ヒューマンスキルの基本を学びます。

ジャトコでは、生産部門の従業員が、モノづくりの基本である技術・技能を高め続けることができるよう、入社時から管理監督者になるまでの、体系的な教育を実施しています。

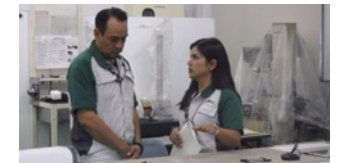


モノづくりのスキルアップ研修

モノづくりの基礎基本から各分野での専門スキルを段階的に身につけ、製造現場での実践につなげることができるよう、各職種について、スキルレベルに合わせた講座を設定しています。また、海外拠点でも同様の人財育成が行われています。



スキルアップ研修（日本）



共通教育（メキシコ）



専門組立基本技能（タイ）

電動化に向けた人財育成

電動パワートレインメーカーとして、電動化商品に対応するための人財育成にも取り組んでいます。

CVT・ATで培ったジャトコならではのモノづくりをベースに、電動化商品特有の機能、構造等を十分に理解し、電動化商品に求められる、より高度な安全性、品質を実現するための準備を着実に進めています。電動化商品の訓練道場も設置しました。



電動化商品の訓練道場

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

労働安全衛生



ジャトコは、従業員が安全・健康で生き活きと働ける職場環境実現のため、「安全絶対」で、災害火災のない職場づくり・安全に強い人づくりと、「健康経営」で、従業員のフィジカルとメンタルの健康の継続的な改善に取り組んでいます。

安全衛生基本方針

従業員一人ひとりが積極的に参画する安全衛生活動の実施

従業員の安全と健康を確保することは企業活動の基本である。これらは企業活動の重要課題であり、後退は企業の存続にも関わる事を認識し、一人ひとりが積極的に参画する安全・衛生活動を労使一丸となって推進していく。

企業発展に繋げた安全衛生活動

安全と健康を継続的に確保する事で従業員はもとより家族、お客様、地域に対して信頼され、安心して働ける企業を目指す。その実現のため、設備の本質安全化の効率的な追求や作業環境・作業方法等の改善と教育訓練を進め、労働災害、職業性疾病、交通災害のゼロを目指し企業の発展に繋げる。

ジャトコの合言葉は「安全絶対」



安全絶対

1. 安全は、すべての作業に優先する。
2. 安全は、いかなる業務よりも重要である。
3. 安全絶対とは、当然に作業能率よりも優先であることを意味する。
4. 安全は作業能率の基盤であり、安全と能率は決して矛盾することはない。
5. 安全は、まず、作業環境の整理整頓から始まる。



安全確保の取り組み

安全活動の3本柱

私たちジャトコは安全活動について下記3本柱を立てています。

1. 安全に強い人づくり
2. 安全な設備 / 作業方法の実現
3. 災害再発防止の取り組み

まずは、人財育成という観点から方策として、「教育」が必要不可欠だと考え、安全に行動することの大切さ、不安全状態の怖さを繰り返し訴えかけています。

二つめに、安全な設備や作業方法の実現に向けて「異常処理撲滅活動」を行っています。活動主目的は、「異常処理を撲滅すること」ですが、物的対策を実施しても撲滅するまで管理するため、現場作業員と連携し活動を実施しています。

最後に「災害再発防止」に対する取り組みとして、過去に発生した災害の総点検を行っています。ハード対策はもちろん、ソフト対策についても実施出来ることを洗い出し災害を風化させないように活動しています。



安全衛生関係者による現場パトロール

安全に強い人づくり

従業員全体の安全レベルの底上げ

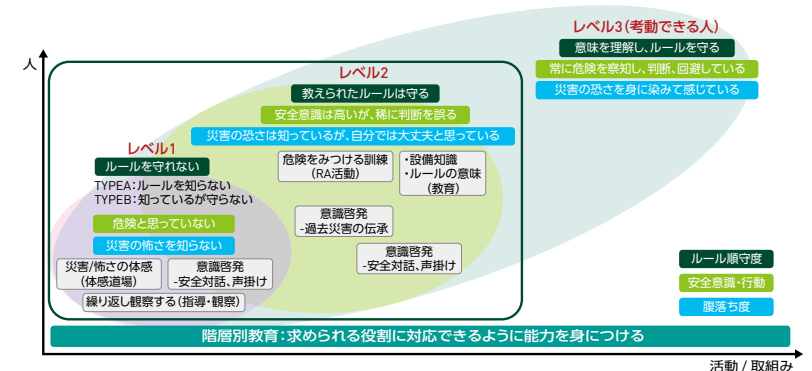
工場を主体とした、安全CAPDo^{*1}活動を軸に安全活動を継続して実施していますが、休業 / 不休災害共に継続して発生している状況です。災害発生要因を4M^{*2}の観点から分析した結果、下記4点が浮き彫りとなりました。

1. 安全知識の不足
2. 危険感受性の不足
3. 日常作業の確認不足
4. 不随作業の見落とし

安全CAPDoといった基礎的な軸は、変えずに危険感受性を高めること（レベル1）、を第一とし、危険取行性を高めプラスして社内ルールを守ることを「レベル2」と決めました。

更に安全ルールの意味を理解するとともに、常に危険を察知し、判断、回避することが出来る従業員を「レベル3」と定義し、現在レベル3の「考動できる人」を目標に日々安全活動に尽力しています。

- *1 CAPDo：計画を最初に立てるPDCAに対し、PDCAの順番を変えて「C（Check= 現状把握）」から始める改善サイクル手法
 *2 4M：Man（人）・Machine（機械）・Material（材料）・Method（方法）の4要素の頭文字を取って名付けられたフレームワーク



“安全に強い人づくり” ありたい姿

労働安全衛生

安全に強い人づくり

安全体感訓練道場の刷新

危険を認識し不安全行動や不安全状態の「怖さ」を体感できるよう、心に訴えかける教育を目標に安全道場での体感教育を実施しています。コンテンツは、従業員が実際にヒヤリとしたことがある内容や実際に発生した災害をもとに作成されたものです。

更に実際に再現すると危険が伴う災害/ヒヤリ事例については、シアター型体感教育ツールを導入しました。これにより、受講者があたかも実際にその空間に存在し作業を実施しているかのようなバーチャル空間で危険を体感することができます。



シアター型体感教育ツールによる教育風景



フィジカル体感教育 実演会

労働安全衛生教育の実施

(1) 危険有害物に対する技能向上教育	
労働安全衛生法に基づく技能講習を実施することで社内に有資格者を育成しています。	
受講対象者	有資格者数
危険有害物取扱業務従事者	148人
社内認定安全監査者（グリーンセスラー）	2,660人
2025年3月末時点	

(2) 階層別安全教育			
階層	現状		FY24
	頻度	内容	
課長	昇格時のみ	新任管理職研修	重点 1回/年 繰り返し教を実施
安全健康管理係長	↑	新任安全健康管理係長研修	
工長	↑	職長教育	
リーダー	↑	↑	
一般	入社時のみ	受入れ教育（共通）	改善 DX体感型安全教育の新規導入 フィジカル体感教育ツール更新 ドライブシミュレータの新規導入
	各1回	↑ SHOP別	
		↑ 配属後	
		スキルアップ教育（基礎・基本）	
		↑ 初級	
		↑ 中級	
		↑ 上級	

安全教育体系と重点について

安全な設備 / 作業方法の実現

従業員全員で取り組む安全活動

安全の確保はすべての作業に優先するという認識から「安全絶対」を合言葉に掲げ、リスクアセスメント活動を始めとする、SESI*1、5S パトロール*2、工場（課）安全パトロール、公開作業観察、安全専門観察などの「現場を観る活動」を中心に災害ゼロから危険ゼロ職場にする為、安全CAPD_oをアジャイル（臨機応変に素早く）に回し安全活動に取り組んでいます。

*1 SESI(Safety Evaluation System I)：職場の安全レベルを定量的に評価するシステム

*2 5S パトロール：「整理・整頓・清掃・清潔・躰」の5S が保たれる様、定期的に現場を巡回する活動



海外拠点を含めグローバルでSESIを実施

労働安全衛生

安全な設備 / 作業方法の実現

異常処理作業の撲滅

特に重点を置いているのは、労働災害発生リスクが高く、生産活動のロスでもある異常処理作業の撲滅です。

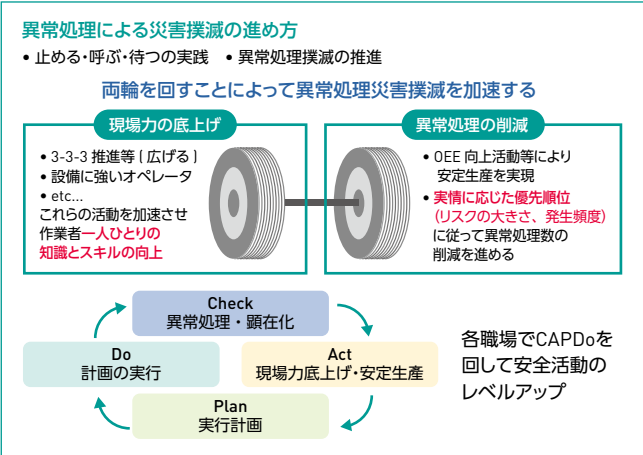
各活動で検出されたリスクは、リストにて把握し、リスクの大きさに応じて対応の優先度や適切な対応策を決め、本質安全対策（設備改善などのハード対策）や、教育・指導などのソフト対策を迅速に実施しています。

また、職場のリスクアセスメント活動の活性化により、すべての従業員が安全で快適に働ける職場づくりを推進しています。

安全健康管理係長の配置

安全健康管理を専門に管理するため、全ての生産課に専任の安全健康管理係長をそれぞれ配置しています。課の安全/ 火災/ 交通事故/ 健康管理に責任を持ち、職場で働く仲間の声を聞き改善していくことを職務として担っています。

また専門家として、社内外に強い安全および健康に関するネットワーク構築することで、お互いに良いものを吸収し合うチームづくりを目指しています。また、外界志向で多様なアイデアをお互いに発言し合うことで、“すぐ行動する”、“よいことは褒める”、“ダメなことはダメと言える”風土づくりにもチャレンジしています。



災害再発防止の取り組み

過去に発生した災害水平展開の総点検活動

過去に発生してしまった災害を二度と再発させないよう、全社へ水平展開された対策内容が現場に浸透しているか、また、継続的対策内容が実施されているかを安全健康管理部が各課の安全健康管理係長と協力して対策内容の状況を確認し、フォローアップしている活動です。活動の主目的は、災害の再発防止ですが、新規に配属された仲間へのOJT（危険周知）も含め、総点検しています。

風化させない安全風土づくり

上記に加えて、「災害メモリアル」と題し、過去災害事例を安全健康管理部より配信しています。過去に発生した災害から学んだことを風化させない・同じ災害を繰り返し発生させない為、過去10年間当社で発生した労働災害を月ごとに同月発生した災害事例として全従業員へ展開しています。

日常の安全活動に各部署の朝礼での注意喚起など、全ての従業員を対象に災害について考える時間を作っています。

安全活動管理指標

災害発生状況

年	区分	実績
2024年	死亡災害	0 件
	休業災害	0 件
2023年	死亡災害	0 件
	休業災害	1 件
2022年	死亡災害	0 件
	休業災害	0 件

業務上の負傷（休業災害度数率*3）

年	区分	実績	全産業*5	日本自動車工業会*6
2024年	休業災害度数率	0.000	2.10	—
	強度率*4	0.000	0.09	—
2023年	休業災害度数率	0.093	2.14	—
	強度率	0.005	0.09	—
2022年	休業災害度数率	0.000	2.06	0.07
	強度率	0.000	0.09	0.002

*3 休業災害度数率：100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数〔(死傷者数/ 実労働時間数) ×1,000,000〕

*4 強度率：1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数で、災害の重さの程度を表す

*5 出展：厚生労働省統計表

*6 出展：日本自動車工業会（14社）
対象範囲：ジャトコ株式会社

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

労働安全衛生

健康経営の取り組み

健康経営宣言

ジャトコグループは、従業員の心身の健康が会社の大切な「資産」であり、従業員が生き活きと働きやすい会社となることを目指して「ジャトコグループ『健康経営宣言』」を掲げています。

ジャトコグループ「健康経営宣言」

従業員一人ひとりがリーダーシップを発揮して、お客さまのニーズに応える先進的な商品を開発すること。モノづくりの技術を高め、世界の競合他社を上回る品質を実現すること。地域社会とのかかわりを大切に公正な事業を行い、地域の活性化に貢献すること。それら全ての原動力は、ジャトコグループ全従業員の活力です。

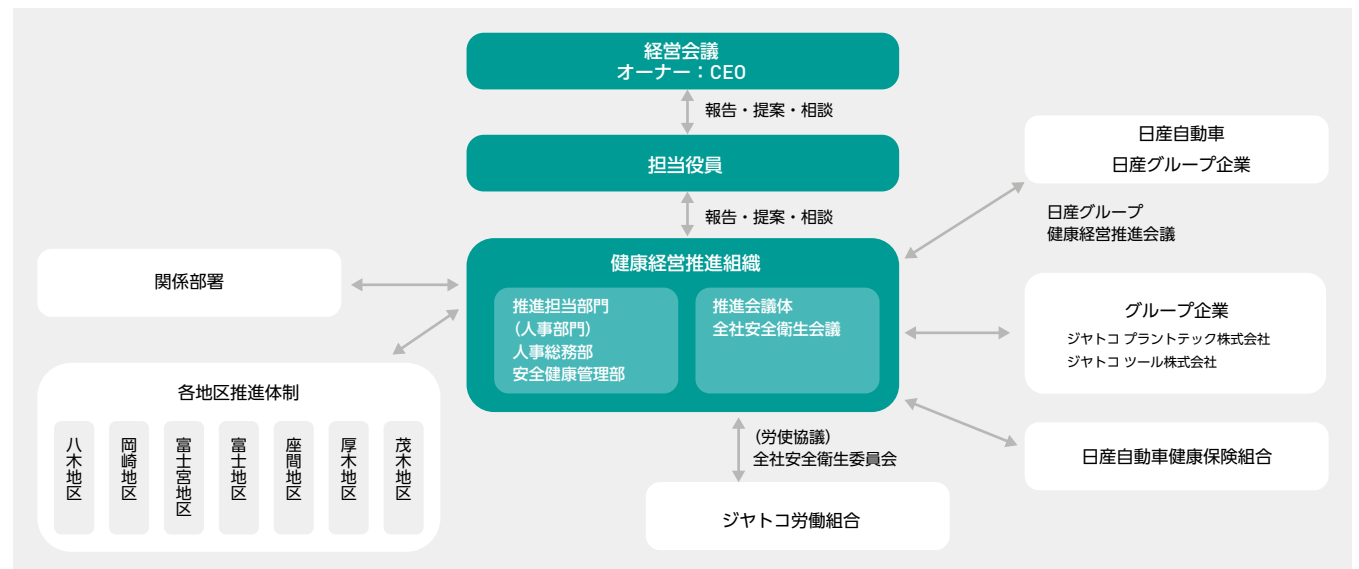
その活力は、従業員の心身の健康の上に成り立ちます。ジャトコグループは、従業員の心身の健康が会社の大切な「財産」と捉え、従業員が生き活きと働くとともにプライベートも充実するよう、クオリティオブライフ（QOL）の向上を図ることで、従業員と企業の幸福の実現を目指します。従業員一人ひとりとそのご家族が健康であることが、ジャトコグループの持続的な発展の礎であるとともに、健康寿命の延伸などの社会要請に応えるものと考えます。

ジャトコグループは、重要な経営課題の一つとして、従業員一人ひとりの健康増進と健康で生き活きと働きやすい会社となるための活動に取り組み続けることを宣言します。

ジャトコ株式会社
社長兼最高経営責任者

佐藤 明由

健康経営推進体制



外部評価

2019年から7年連続して「健康経営優良法人（ホワイト500）」認定を受けています。

2024年から2025年の2年連続して健康経営度調査の最上位の1位から50位の評価をいただきました。



スポーツ庁の「スポーツエールカンパニー2025」の認定を受けています。本件は2021年2月に初めて認定され、今回で4回目の認定になります。



イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

労働安全衛生

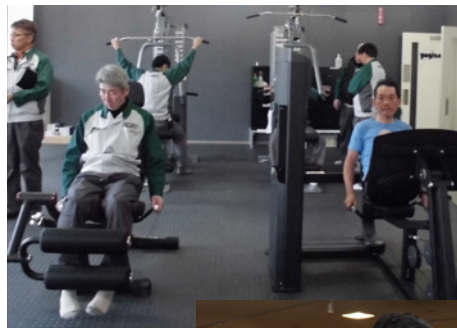
生活習慣改善

健康づくりイベント・健康教育

従業員が抱える健康リスクに対してより良い生活習慣の定着を図るため、健康増進活動を継続して実施しています。楽しみながら実践できる参加型のイベントを各事業所で実施し、健康意識の向上を目指します。

社内ジム

今まで運動習慣が無い人でも気軽に運動できる環境づくりとして、事業所内にトレーニングジムを設置しています。



社内ジム



役員向け健康イベント

健康づくりイベント：参加者2,088人

食育イベント

- ・ヘルシーメニューの提供

ウォーキングイベント

- ・家族と地域の名所や商店を巡るコースを設定

体力測定

- ・高齢化に向けた体力の維持・向上

健康教育：参加者1,583人

女性特有の健康課題教育/睡眠に関する教育

- ・健康課題への知識向上教育の実施

年代別教育

- ・ライフステージや職場環境の変化に合わせた一生涯の健康づくり活動

社内ジム：参加者384人

全従業員（関係請負人含む）が気軽に運動できるジムを社内
に設置

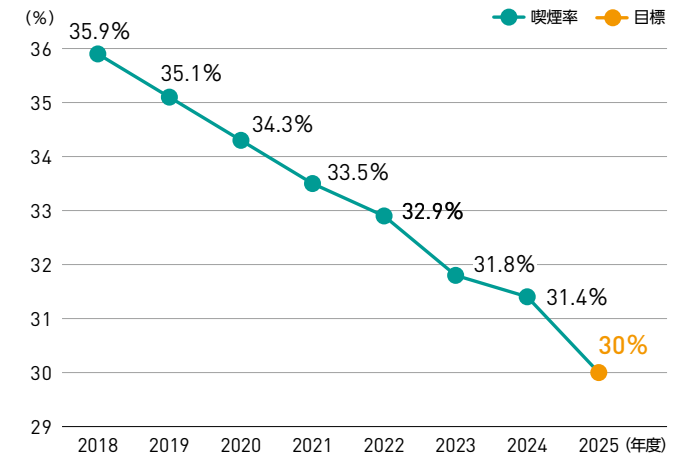
卒煙活動

当社はグループ会社も含め2003年より喫煙対策を始めており、2007年から本格的な分煙活動、2013年から禁煙時間の設定を実施し、2017年より構内（敷地内）禁煙を開始しました。また、喫煙者に対する「卒煙（禁煙）」活動として、卒煙者インタビューや禁煙ガムの配布、社内禁煙外来の開設も併せて実施しています。

その結果、社員の喫煙率は徐々に減少傾向となっています。

2025年に30%まで下げることが目標としています。

喫煙率の推移



労働安全衛生

メンタルヘルス対策の取り組み

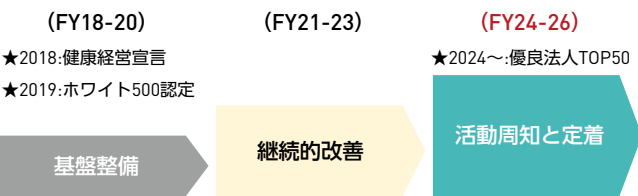
ジャトコは従業員、管理監督者、産業保健スタッフ、人事部門それぞれを対象とするメンタル支援施策を整備し、メンタルヘルスに関する基礎知識・ストレス対処（セルフケア）に関する知識、部下への対処（ラインケア）に関する知識の習得と理解の浸透に

取り組んでいます。2018年度からは健康経営活動のひとつとしてよりPDCAを意識した取り組みや在宅勤務など働き方の変化や多様化に伴う精神的負担感に対するアプローチも行っています。

	産業医・産業保健スタッフ	セルフケア(本人)	ラインケア(管理職、監督者)	安全健康管理部・人事総務部	外部EAP
予防管理 (0次予防)	法定【ストレスチェック】制度				
	法定【ストレスチェック】高ストレス者フォロー				
			職場環境改善活動		
	・健康教育企画 ・受講促進 ・健康相談	層別メンタルヘルス教育		・メンタル教育企画 ・受講促進 ・企画 ・PR活動	・教育講師 ・カウンセリング対応
		年代別健康教育			
		(体験) カウンセリング			
兆候管理 (1次予防)	相談対応(健康相談、メンタルヘルス相談等)				職場復帰支援 カウンセリング対応
	・医療機関紹介	・相談窓口の利用	・医療職への連携	・長時間残業管理	
発症管理 (2次予防)	休業・休職者管理、復職への取組み・復職支援				
	・休業休職者状況確認	・復職への取組み	・休業休職者状況確認	・休業休職者管理	
再発管理 (3次予防)	休業・休職者管理、復職への取組み・復職支援				
	・リワークの推奨 ・医療機関連携	・再発への取組み	・復帰後の業務検討	・復帰後の業務検討 ・メンタルコアチーム活動	

健康管理中期計画

健康経営宣言が目指す姿を実現するための中期計画を策定し、ジャトコ健康経営の6本柱の活動を実行しています。



ありたい姿	中長期目標、〔達成年〕	重点アクション
・健康経営の取組によって従業員一人ひとりが健康でいきいきと働きやすい会社となっている状態	〈アブセンティズム〉 休業休職者千人率：9.9以下〔FY28〕 〈プレゼンティズム〉 仕事の自己採点：〔ストレスチェック設問〕6.7/10点以上〔FY28〕	〔活動の6本柱〕 ①生活習慣改善 ②がん早期発見 ③メンタル不調早期対応 ④早期復職、再発予防 ⑤ストレス耐性向上 ⑥働きやすい職場環境

健康経営活動管理指標

		FY22	FY23	FY24
アブセンティズム	フィジカル休業者千人率	2.6	2.6	1.8
	メンタル休業者千人率	7.4	6.9	8.8
プレゼンティズム	ストレスチェックと同時にWHO-HPQの絶対的プレゼンティズム（0～100点〔%〕）を用いた従業員調査を定期的に実施。実績値は損失割合を計算し全従業員の平均を算出しており、値が高いほど損失が大きいくことを示す。実績値は全従業員平均。（%）	37	36	36
ワークエンゲージメント	ストレスチェックと同時に、ユトレヒト・ワーク・エンゲージメント尺度と相関の高いベンターオリジナルの従業員調査を定期的に実施。実績値は全従業員の偏差値の平均を算出しており、値が高いほど良好であることを示す。実績値は全従業員平均。（%）	47.8	48.2	48.7



事業基盤

誠実な経営と事業基盤の強化

信頼される品質

人権

持続可能で責任ある調達

ステークホルダーエンゲージメント

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

災害対策（物理的ハザード）

情報セキュリティ



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

信頼される品質



品質に関する方針・考え方

ジャトコは経営理念において、「社会から信頼される企業」として、商品・サービスを通じてモビリティに新たな価値を提供することをミッションとしています。品質を全社的な重要課題と位置づけ、品質マネジメントシステムに基づき品質方針を策定し、その実現に向けた取り組みを推進しています。製品の企画・開発から生産、物流、販売、アフターセールスに至るまで、お客さまと関わるあらゆる場面で高品質を提供し続けることで、お客さまの満足を追求し、信頼される企業を目指しています。

品質に関するマネジメント

グローバルで品質向上を推進する体制を構築し、品質向上活動の責任者やプロセスについては、IATF16949に準拠した品質マネジメントシステムに基づき明確化し、全世界で適用しています。2025年9月現在、生産拠点において、11全ての拠点がIATF16949の認証を取得しています。また、階層に応じた品質マネジメントシステム研修を実施しており、新入社員や新任の現場監督者、新任管理職を対象としています。

品質に関するマネジメント体制

ジャトコでは、お客さまの満足を追求し、信頼される企業を目指すため、コーポレート品質保証部門担当役員を議長とする品質委員会を毎月開催し、製品品質およびサービス品質の課題の迅速な解決と改善活動を、各部門の役員と推進しています。

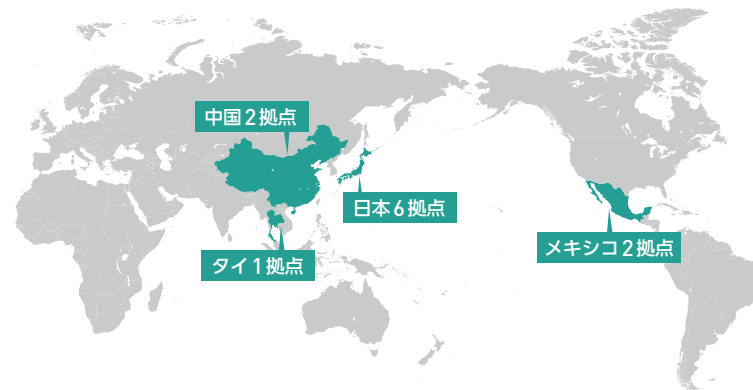
また、コンプライアンスの徹底に向けて、3層構造のモニタリングおよび監査体制を構築し、監査活動の強化にも取り組んでいます。

品質方針

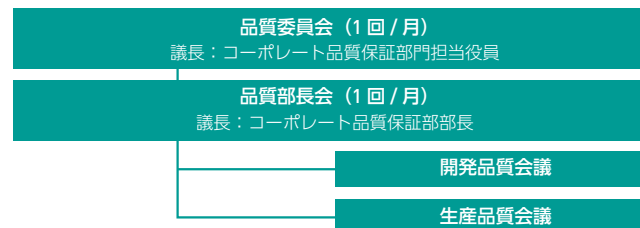
信頼される品質で社会・お客さまに満足と価値を提供

- ・ **社会からの信頼** …… 法令を遵守し高い倫理観と透明性を企業文化に浸透
- ・ **お客さまの満足** …… お客さまの満足を最優先に商品・サービスを通じて新たな価値を提供
- ・ **商品・サービスの質** …… 技術と情熱で仕事の質を高め高品質な商品・サービスを提供
- ・ **継続的改善** …… 組織の人々の協働・共創による品質マネジメントシステムの有効性向上
- ・ **品質を創る人材** …… 挑戦する姿勢とやり抜く力の育成

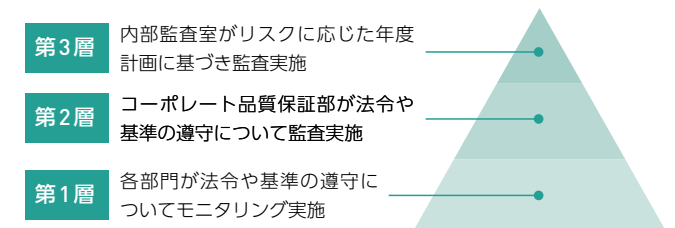
IATF16949認証取得状況



マネジメント推進体制



モニタリング・監査体制



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

信頼される品質

品質向上への取り組み

お客様の声を品質向上活動に反映

お客様の期待する価値を提供するとともに、お客様の感じる不満などに迅速に対応するため、お客さまからのすべての声に耳を傾け、開発からサービスに至る品質の改善活動に反映させています。

お客様の声への迅速な対応とタイムリーな情報共有

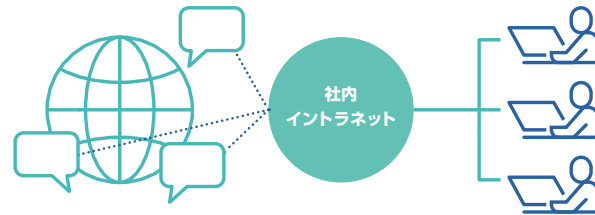
ジャトコでは、自動車メーカーを通じお客さまからの問い合わせや相談に応えています。また、市場でのお客さまの声は、いつでも従業員が閲覧できるよう社内のイントラネットに掲載し共有しています。

お客様の声を製品やサービスに反映

市場でのお客さまの声は、企画、開発、生産、販売など、あらゆる部門で確実に共有し、製品やサービスに反映する仕組みを整えています。

お客さまが製品に求める期待値は、地域、年齢、嗜好などで異なり、製品の普及度や気候など市場特性の影響を受けることもあります。ジャトコはグローバルデザインを基本仕様としながらも、地域のニーズに合わせた対応も行っています。

これらの活動を主導するのがチーフクオリティエンジニア（CQE）です。CQEは企画段階からお客さまの視点を製品やサービスに反映させる役割を担っています。



市場でのお客さまの声を共有

お客さま視点を醸成するための取り組み

高品質の実現には、従業員一人ひとりがお客さまの視点で業務に取り組むことが重要です。ジャトコでは、全社研修や日常的なフィードバックの共有を通じて、マインド醸成を図っています。2006年より実施している「ジャトコクオリティフォーラム」では、品質に関する取り組みや市場の声に対する改善活動を、展示や体験型イベントを通して紹介し、理解を深めています。2024年度には、こうしたイベントに約4,000人が参加し、品質意識の向上に寄与しています。



2006年から実施する「ジャトコクオリティフォーラム」

製品・サービスの品質の向上

お客さまに長く安心して快適にご使用いただくため、お客さまの不満を確実に把握し、その解消に向けてあらゆるプロセスで対策活動を実施することで、一人でも多くのお客さまに満足いただけるよう品質を向上させています。

市場品質改善活動

初期品質の向上



お客さまに高品質の製品をお届けするために、

- ・企画・開発・生産などの全プロセスで一貫通貫の品質を確保
- ・リスクの可視化により不具合の未然防止を徹底

耐久品質の向上



お客さまに長く快適にクルマに乗り続けていただくために、

- ・使用済み部品を回収し、品質確認と早期不具合検出に活用
- ・各種データを活用し劣化抑制技術の開発を促進

サービス品質の向上



お客さまへの対応の質を向上させるために、

- ・交換部品の最小限化による負担軽減
- ・点検・修理方法の最適化

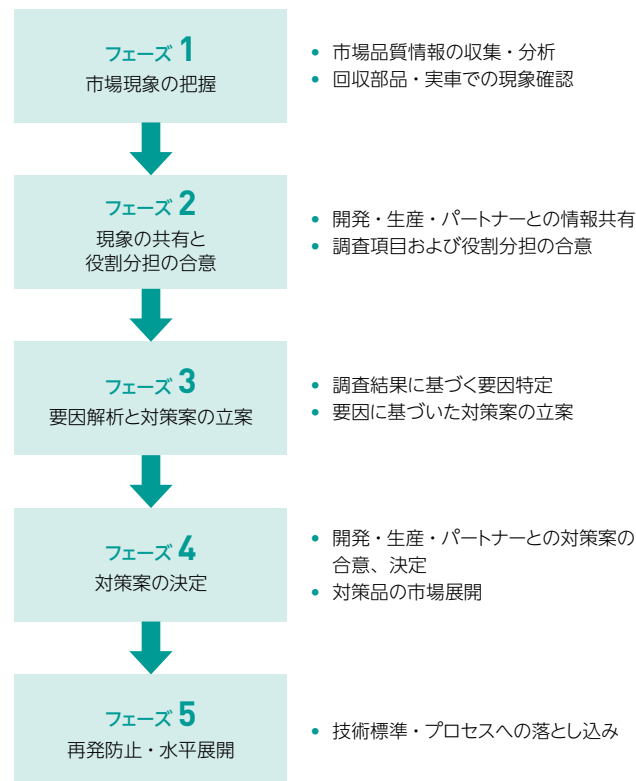
イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

信頼される品質

市場での迅速な品質改善への取り組み

ジャトコは、自動車メーカーを通じて販売会社や「お客さま相談室」などに入ったお客さまの不満や不具合の状況を把握し、開発や生産部門と情報を共有し、原因究明・対策検討などを実施して、不具合の流出防止を促進するなど、恒久的な対策をとっています。

5つのフェーズでの市場品質調査・解析活動の概念図



また、ジャトコの企業活動がグローバルに拡大するのに伴い、不満や不具合も世界各地で発生する可能性があります。そうした不具合を現地で迅速に解析し要因を分析するため、ジャトコでは日本、米国、フランス、スペイン、中国、韓国、メキシコ、タイの計8カ所に調査拠点を設けています。同調査拠点では5つのフェーズに分けて市場品質の調査・解析活動を実施しています。

重大な不具合への公正・迅速な対応について

製品の不具合を発生させないよう最善を尽くすことが責務と捉えると同時に、複雑な工業製品であるパワートレインづくりにおいて、万が一のときに備えることも私たちの責務です。ジャトコでは透明で公正・迅速な対応を基本姿勢としています。具体的には、お客さまの安全確保とお客さまへの迷惑を最小限に抑えること、法令遵守を最優先に、迅速な改修につなげています。

パートナーとの取り組み

部品の品質や供給に関するリスク対応を含め、ジャトコはパートナーと協働しながら、すべての生産拠点において、部品の設計段階から品質向上に取り組んでいます。

パートナーと推進するリスク評価・低減のマネジメント

グローバル品質マネジメントの強化を進めるとともに、パートナー各拠点における生産工程の品質管理状況を現場・現物で確認し、ジャトコの要求レベルを満たすことができるようにパートナーの改善活動を支援しています。

また、ジャトコへ部品納入しているパートナーのみならず、その

構成部品を生産する二次パートナーまで巻き込んだ共同改善活動を行うなど、さまざまな品質向上策に取り組んでいます。

納入部品の品質向上のための監査・トレーニング

ジャトコは、納入部品の品質を確保するため、パートナーと協働しながら監査を実施しています。

パートナーからひとつの部品がジャトコに納品されるまでには、企画段階の確認から、設計の図面製作、試作品づくり、性能確認、量産体制の確保など、さまざまな工程が必要です。ジャトコでは、この一連の流れにおいて必要な品質保証活動を取り引先のための品質管理基準として規定し、すべての部品、一つひとつにおいて実行することで正確な部品が納品される仕組みを整えています。ジャトコでは独自のパートナー品質評価基準であるパートナーヘルスチェックに準拠しパートナーの支援を行っています。良品・不良品の明確な識別方法の有無、トラブル防止の仕組みの確認など、パートナーの作業現場を確認します。

また、製造工程のみならず、部品材料についてもパートナーと連携した品質管理体制により、すべての部品について材料認証を取得していることを確認しています。すべてのパートナーには取引先のための品質管理基準のトレーニングを実施し、パートナー内で展開、実行することで、正確な部品が納入される体制を構築しています。

また、パートナー向けスコアカードによる納品品質や市場品質などの診断と、マネジメント体制を確認するパートナー向け工場監査を実施しています。これにより、良質な部品の安定供給の仕組みや継続的な品質改善活動の実施状況を定期的に確認しています。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

人権

人権についての考え方

ジャトコは、「技術と情熱でモビリティの可能性を広げる」というコーポレートパーパスを実現するために、すべてのステークホルダーの人権を尊重すること、適用される法令、基準を遵守すること、ならびに当社の従業員が社内規則に定められた最高の倫理基準に基づいて行動することが不可欠であると認識しています。従業員や取引先、お客さま、地域社会の多様性を評価・尊重し、差別やいやがらせは、どんな形・程度にせよ容認しません。役員および従業員が相互の人権を尊重し、人種、国籍、性別、宗教、障がい、年齢、出身、性自認、性的指向、その他の理由による差別やいやがらせを行うことや、その状態を容認することを認めません。世界人権宣言（UDHR）をはじめ、市民的及び政治的権利に関する国際規約（ICCPR）、経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約（ICESCR）、労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関宣言（ILO 中核的労働基準）に記載された人権を尊重します。

国連のビジネスと人権に関する指導原則（UNGPs）を参照すべき国際基準と位置づけ、事業活動から生じる可能性のあるリスクを管理し、すべての人権への影響を積極的に防止する取り組みを行っています。

人権尊重に関する考え方をサプライチェーンも含め、より明確かつ強固なものにするために「人権尊重に関する基本方針」を、各国地域のジャトコの従業員がより安心して働けるよう、人権に対するコミットメントを説明し事業活動における人権尊重が確実に実施されるようにするために「グローバル人権ガイドライン」をそれぞれ公開しました。同ガイドラインではジャトコの事業活動に照らし合わせ、7つのテーマを設定し、事業全体での従業員に対する人権尊重の取り組みをより一層強化しています。

人権に対する取り組み

従業員の労働および人権の適切な管理を可能とするだけではなく、QoL（Quality of Life: 生活の質）を高いレベルで維持・向上させていくために各国・地域で働きやすい職場づくりを推進しています。年次有給休暇について、日本では法律遵守（年間最低5日取得）はもちろんのこと、一人年間15日、年次有給休暇を取得できるよう部署で長期休暇の前後に「取得奨励日」を設定するなどの取り組みを行っています。また、各国で、ES（Employee Satisfaction）向上委員会などを定期的で開催し、従業員からの改善要望をダイレクトに受け入れる仕組みを導入し、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

また、ジャトコは、人権を尊重していく上で、従業員と対話することを重要な機会と捉えています。従業員の代表との労使間での定期的な協議はもちろんのこと、四半期に一度、Global Employee Meetingを開催し、経営層からメッセージを伝えるだけではなく、従業員からの質問に経営層が回答する機会を設けています。各国地域で、現地社長と従業員のダイレクトコミュニケーションタイムを設定するなど、グローバルで従業員とマネジメント層のコミュニケーションを大事にしています。

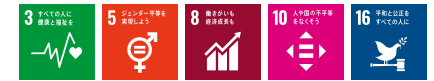
職場におけるセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントやその他のハラスメント（いやがらせ）を「しない」「させない」「許さない」という姿勢のもと、性別（男性・女性・その他）を問わず、すべての従業員が被害に遭わないよう、防止に努めています。その施策としてグローバル全拠点を対象にe-ラーニングにて人権方針・ガイドラインに関する内容を織り込んだ行動規範教育を実施し、さらに2024年にはそれまで日本の管理職のみを対象に行っていたハラスメント研修を人権ガイドラインに基づく

内容に改定し、グローバル全拠点で行うなど、従業員の意識向上、啓発に努めています。

人権尊重の悪影響を与えかねない違反行為に関しては、内部通報システムの導入により、救済措置をとっています

人権マネジメント

人権に対する悪影響を未然に防ぐため、日産グループの企業として、人権デューデリジェンスプロセスを実施し、リスク管理を行っています。2024年には、専門コンサルタントによる人権デューデリジェンス監査を日本で実施し、非常に良好なコーポレートカルチャーを醸成していると評価されています。人権ガバナンスについて、課題やリスクは、必要に応じて当社の経営会議で議論されます。人権に関する取り組みを、自社の活動を越えた範囲で実施することの重要性を認識しており、グローバルなサプライチェーンのすべての段階において、倫理的かつ社会・環境に配慮した事業活動を実現することを目標としています。この目標を達成するために、私たちはサプライヤーや委託業者を含む全てのビジネスパートナーと協力し、人権に配慮した事業展開を実践しています。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

持続可能で責任ある調達



メッセージ

私たちは「環境・社会への責任ある調達」を基本方針に掲げ、パートナーの皆さまとともに、100年企業に向けた持続可能なサプライチェーンの実現を目指しています。当社には「JATCO Purchasing Way」や「CSRガイドライン」などのサステナブルな活動につながるガイドラインがあります。環境においては、環境負荷物質などの使用を抑制し、温室効果ガスの排出量を削減するカーボンニュートラルの取り組みを当社だけでなく、パートナーの皆さまと連携しながら進めています。また、労働環境や人権の尊重についても厳格な基準を設け、パートナーの皆さまにも社会的な責任を果たすことをお願いしています。倫理的な調達を推進することで、サプライチェーン全体の信頼性を高め、社会全体に貢献することを目指しています。



調達部門長
常務執行役員
大森 勝

サプライチェーンに対する基本的な考え方

ジャトコは、法令や人権を尊重しながら、さまざまなステークホルダーとコミュニケーションを取り、刻々と変化する社会や環境に配慮しつつ、企業としての責任を果たすことを目指しています。

また、「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスのもと、新規事業にも挑戦しており、今後も企業活動のフィールドを拡大し続けます。

その過程において、当社のビジョンや方針に共感していただくことは、自らの企業責任を果たすために欠かせません。ビジネスパートナーとの長期的な信頼関係を築くことで、双方にとって有益な目標を達成できると考えています。

ビジネスパートナーとの相互信頼を深めるために

「パートナーシップ構築宣言」への署名

ジャトコは2022年に「パートナーシップ構築宣言」の趣旨に賛同し、宣言書に署名しました。



この宣言に基づき、サプライチェーン全体の共存共栄を図ると同時に、規模や系列を超えた新たな連携を推進しています。

また、取引慣行や商慣行の是正に積極的に取り組んでおり、適正取引の推進を重視しています。

私たちは、この宣言に従って振興基準を遵守し、取引の適正化に努めるとともに、さまざまな課題に取り組み、ビジネスパートナーと共に持続的な発展を目指しています。

「JATCO Purchasing Way」と「CSRガイドライン」の設定

ジャトコでは、Tier1ビジネスパートナーだけでなく、Tier2以降のビジネスパートナーにも当社のビジョンや方針、責任を理解していただくことが重要だと考えています。

そのため、基本原則「信頼」「相手への敬意」「透明性」に基づいた「JATCO Purchasing Way」を設定し、企業としての価値観を明確にしています。同時に「CSRガイドライン」により、サプライチェーン全体で継続的に発展するために求められる社会的な責任を明示しています。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

持続可能で責任ある調達

JATCO Purchasing Way

「JATCO Purchasing Way」では、取引を行う際に重視する価値観をビジネスパートナーに明示しています。

この価値観に基づき、社会的な責任を共有するだけでなく、ビジネスパートナーの課題を分かち合い、社内のノウハウや人材を活用してサポートすることを約束しています。

CSR ガイドライン

「CSR ガイドライン」では、企業の社会的責任を果たし、お互いが継続的に発展するための要素を「コンプライアンス」「安全と品質」「人権と労働」「環境」「情報開示」の観点から解説しています。ビジネスパートナーに対し、さまざまな課題に対する取り組みを要望しています。また、人権や環境の側面から、環境負荷物質や紛争鉱物への管理体制の構築も併せてお願いしています。

グリーン調達ガイドラインの設定

ジャトコは、「全ての事業活動を通じて持続可能な地球環境に貢献」という環境方針に基づき、製品のライフサイクルにおいて環境に配慮した取り組みを推進しています。そのため、ビジネスパートナーと共有すべき環境に関する方針や基準を「グリーン調達ガイドライン」として定め、環境への取り組みや環境負荷物質の管理について明記しています。

特に環境負荷物質に関しては、サプライマネジメントの観点からIMDS（International Material Data System）へのデータ入力をお願いしています。このIMDSデータに基づき、製品に使用されている環境負荷物質の管理状況や各種規制への適合性を確認しています。

ビジネスパートナーと事業継続活動

BCPの協力体制の強化と被災時の支援活動

近年、自然災害や感染症パンデミックによる休業や操業停止など、影響が広範囲かつ長期化している問題が頻発しており、サプライチェーンのさらなる強化が求められています。

ジャトコは、これまでもビジネスパートナーと一体となってBCP（事業継続計画）を策定し、自然災害の発生に対応できるサプライチェーンを構築してきました。併せてBCM（事業継続マネジメント）の観点から、有事の際の人道支援や生産活動の復旧支援はもちろん、平時においてもさまざまな取り組みでビジネスパートナーに支援を行い、サプライチェーンの安定化に努めています。

例えば、定期的にビジネスパートナーの生産拠点を訪問し、当社オリジナルの評価表を使用して被災リスクの見える化を進めています。この評価結果をもとに、各社の実情に合った対策や優先順位を協議し、リスク軽減に協力しています。

サイバーセキュリティにおける連携

現代では、コンピューターシステムやネットワークを標的とするサイバー攻撃が大きな脅威として認識されています。自然災害と同様に、サプライチェーンが被害を受けた場合、各社の基幹システムが停止し、企業活動に多大な影響を及ぼす可能性があります。

ジャトコはビジネスパートナーと共にサイバーセキュリティに対する取り組み状況を見直し、予防対策や被害が発生した場合の事業活動への影響を確認しています。また、一部のビジネスパートナーとは、サイバー攻撃を受けたと仮定したシミュレーションを実施しています。このシミュレーションにより明らかになった課題と対策をビジネスパートナーと共有し、連携をさらに強化しています。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

持続可能で責任ある調達

持続可能な地球環境に向けた取り組み

ジャトコでは、気候変動への影響を抑え、社会環境の維持・向上を目指した活動を推進しています。

環境マネジメントシステムの構築

環境への負担を減らし、持続可能な社会に貢献するためには、さまざまな法規や規則を遵守するだけでなく、積極的に環境保全への取り組みを推進する必要があります。そのため当社はもちろん、ビジネスパートナーにも環境マネジメントを積極的に取り入れ、課題に取り組んでいただくよう努めています。

カーボンニュートラルへの取り組み

ジャトコは2013年を起点に、CO₂排出量を2030年までに46%削減し、2050年にはゼロを目指しています。

この取り組みの範囲は、自社事業所での活動だけでなく、サプライチェーン全体を含むカーボンニュートラルの実現を目指しています。

今後もカーボンニュートラルに向けた活動を加速し、ビジネスパートナーと協働で環境改善を進め、CO₂排出量を削減し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

サーキュラーエコノミーへの取り組み

ジャトコは、耐久性に優れた製品を設計することで廃棄物を減らし（Reduce）、市場から回収された製品の部品を選別・再生し（Reuse）、アルミ材など再資源化可能な材料の部品を積極的に採用して（Recycle）、循環型経済の実現に努めています。

また、新規事業における新製品については、リサイクル材だけ

でなく、グリーンアルミ材の採用も検討しており、再生可能エネルギーの利用についても積極的に推進しています。

環境負荷物質に対する管理の向上

ジャトコは、各国・地域の環境負荷物質に関する法令を遵守し法令変更にも迅速に対応しています。特に化学物質については、各国で管理対象物質が増加しており、使用制限が急速に進んでいます。

そのためには、法令で禁止された化学物質を原材料に使用しない製品の開発だけでなく、製造過程においても該当する化学物質を使用しないことが重要です。ジャトコは、ビジネスパートナーの協力を得て、環境に影響を及ぼす物質に対するマネジメント体制を構築し、使用情報の収集や管理を行っています。

特定紛争鉱物に対する管理の向上

紛争地域で採掘される特定鉱物資源は、武装勢力の資金源となり、紛争の長期化や人権侵害を引き起こす要因として広く知られています。特定紛争鉱物の問題は人権に限らず、違法な採掘行為によって森林破壊、土壌汚染、水質汚染などの環境破壊を引き起こし、深刻な生態系への影響を及ぼしています。

ジャトコは、環境負荷物質だけでなく、製品に含まれる構成物質の生産工程に関する情報を集約し、サプライチェーンの透明化と紛争鉱物の排除に取り組んでいます。

ビジネスパートナーとのコミュニケーションの向上

サステナブルな社会の実現に向けた企業活動は、ご協力いただいているビジネスパートナーの企業活動にも影響を及ぼすため、ビジネスパートナーとの公正で対等な関係性を維持・向上させることがサプライチェーンを維持するための重要な要素となります。

ジャトコは、両社が公正で対等な関係性を維持するため、様々な取り組みを行っています。

「方針説明会」や「モノづくりセミナー」などを開催し、ビジネスパートナーに当社の方向性や課題を発信しています。



さらに、サステナブル活動を積極的に推進し、当社の活動に尽力していただいているビジネスパートナーを、グローバルおよび各リージョン毎に毎年表彰しています。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

ステークホルダーエンゲージメント



ステークホルダーとの対話を通し、関心事を理解する

ジャトコの企業活動はさまざまなステークホルダーのみなさまとの信頼関係の上に成り立っています。ジャトコは、自社の持続的な成長とよりよい社会の発展を両立させるために、ステークホルダーの関心事について積極的に対話を行い、ステークホルダーの声に耳を傾け企業活動に反映することが重要だと考えています。ステークホルダーとの対話の機会を設けることは、リスクやオポチュニティを見出すことにもつながります。ジャトコでは、より多くの声を企業活動に反映させるため、様々な対話の機会を設け、その結果を確実に社内にフィードバックしています。

信頼関係の構築に向けて

変化するお客さまのニーズには迅速に対応し、安全・安心を第一に考えた商品やサービスの提供により、お客さまの真の満足を追求します。

ビジネスパートナーのみなさまとも、相互信頼に基づいた公正な取引を通じて、互いの成長を実現する取り組みを進めています。

また、多様性の尊重と人材育成を実践し、従業員一人ひとりが成長を実感できる働きがいのある職場づくりを目指しています。

そして、ジャトコが事業を展開するすべての地域において「よき企業市民」であるため、地域社会と一体となった社会課題の解決や、それぞれの地域に根ざしたコミュニケーション活動に取り組んでいます。

ステークホルダー	対話の機会	主なテーマ	主な取り組み
お客さま	- 日常事業活動でのコミュニケーション - 企業サイト - SNS - メディア等を通じた情報提供 - 問い合わせ窓口の設置等	- 製品やサービスの品質 - お客さまへのサポート	- 技術説明会、試乗会 - お客さま要求事項への対応 - お客さまによる当社評価の分析・改善
従業員	- 定期的な従業員との交流イベント - キャリア開発面談 - 各種従業員対象意識調査 - 労使協議会 - 内部通報制度 - イントラネット	- 会社の業績や課題 - 社内ダイバーシティ - 多様な働き方 - 職場環境・労働安全衛生 - キャリア、教育	- 役員による全社員向け経営情報共有 (Global Employees Meeting) - 役員との事業テーマ別意見交換会 - キャリア開発面談 - 従業員意識調査からの職場環境改善活動 - 内部通報制度 [イージーボイス、スピークアップ] - 従業員家族参加の交流イベント
ビジネスパートナー	- 日常事業活動でのコミュニケーション - 方針説明会 - お取引先様ウェブサイト - 各種ガイドライン等	- 公正な取引 - 調達方針 - サステナビリティ方針	- 取引先方針説明会 - 取引先表彰 - モノづくりセミナー
地域社会	- 自治体・地域団体とのコミュニケーション - 従業員による社会貢献活動 - 地域住民を交えたイベント等	- 地域社会への貢献 - 社会課題の解決に向けた自治体や地域団体との協働	- 従業員によるボランティア活動 - 自治体及び地域企業間交流 (P**) - 地域住民を交えた事業所イベント (ジャトコフェスタ)
株主	株主総会	ジャトコの事業戦略、業績、企業価値向上	株主総会

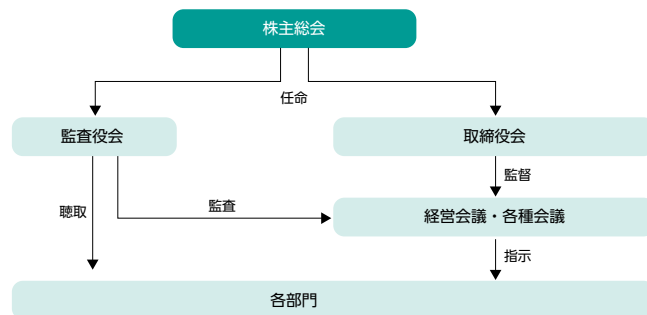
ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス



コーポレート・ガバナンスの徹底

企業統治の体制

ジャトコは会社法上の監査役会設置会社となっており、株主総会、取締役会、監査役会を法定の機関として設置しています。取締役会は原則毎月一回開催し、経営にかかわる重要な事項の決定、業務執行の内容の監督を行っています。取締役会は、業務執行を行う取締役のほか、社外取締役から構成されており、客観的に業務執行の状況を監督できる体制となっています。また、効率的・機動的に経営を行うため、執行役員制度を採用し、明確な形で執行役員に権限委譲を行ったうえで、事業を運営しています。



内部統制システムの強化

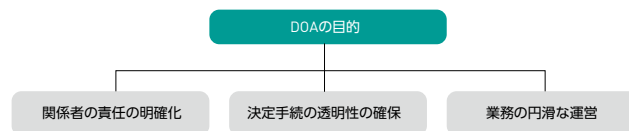
ジャトコは、適正かつ効率的な企業活動を確実なものとするため取締役会において決議した「内部統制システムの基本方針」に基づき、内部統制の維持・強化を図っています。「内部統制システムの基本方針」では、主要項目として下記を定めており、内部統制システムが有効に機能しているか否かについては半年ごとに確認し、その結果を取締役に報告しています。

「内部統制システムの基本方針」の主要項目

- 取締役・従業員の職務の執行の法令・定款への適合
- 取締役の職務の執行に係る情報の保存・管理
- 適切なリスクマネジメント
- 取締役の職務の効率的な執行
- 企業グループ（親会社および子会社）における職務の適正の確保
- 監査役の監査の実効性の確保等

重要な業務事項とその決定

重要な業務事項とその決定に関わる権限基準はDOA (Delegation of Authority の略、権限委譲) にて定めています。DOA 制定の目的は、関係者の責任の明確化、決定手続の透明性の確保、業務の円滑な運営です。



コンプライアンスの強化

コンプライアンスの基本的な考え

ジャトコグループでは、各国・地域の法令を遵守することは、社会から信頼されるための最低限の条件であると考えています。また、法令遵守はもちろん、グループのすべての従業員が高い倫理観をもって公正で誠実に行動することも重要と考えています。ジャトコは「グローバル行動規範」を制定し、グループ内のすべての役員、従業員が守るべき行動指針を示し、コンプライアンスの徹底に努めています。

グローバル行動規範で定めている項目

1. 法律・ルールの遵守
2. 安全の推進
3. 利益相反行為の禁止
4. 会社資産の保護
5. 公平・公正な関係
6. 透明性と説明責任の確保
7. 多様性の尊重と機会平等
8. 環境保護
9. 実践・報告の義務

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

リスクマネジメントへの取り組み

リスクマネジメントの推進

グローバルな事業展開に伴い多様化するリスクに対応するため、ジャトコでは、内部統制の一環としてリスクマネジメントを実施しています。

具体的には、リスクユニバース12項目について、役員含めた関係者にインタビューを実施し、年度ごとにリスクを洗い出し、経営会議において取り組むべき項目を決定し、項目ごとに任命された責任者のもと、リスク低減のための対策を立案・実行しています。各項目における取り組みの進捗は経営会議に報告され、年度末に各項目のコントロールレベル評価が行われます。

リスクユニバース12項目

①商品戦略	⑦マネジメント品質
②生産戦略	⑧倫理および不正行為
③販売＆マーケティング戦略	⑨人財
④事業継続性	⑩金融＆市場リスク
⑤商品およびサービス品質	⑪外部環境変化に対する適応性
⑥情報品質	⑫法務リスク

コーポレートリスク管理のための年間計画	
役員インタビューなどによるリスク抽出	1月～2月
リスクアセスメントによる評価と課題候補の選定	2月
CRM* 課題定義と課題オーナーの決定 (経営会議)	3月～4月
中間報告：方策の方向性の合意	9月～10月
最終報告：方策実行の完了	3月

*CRM: Corporate Risk Management

BCM*委員会による取り組み

地震・台風などの自然災害をはじめ事業の継続を危うくするような事態が発生するケースがあります。ジャトコでは発生し得るさまざまなリスクを想定し、リスク発生の未然防止および発生時のリスク低減に向け、BCM委員会を設けて対策を実行しています。生産の継続に影響を与える事態が実際に発生した場合は、ただちに関係者に周知され、BCM委員会が中心となり、全社の各部門の協力を得ながら問題の解決を図ります。

大規模地震発生時の初動の対応、早期復旧のための適切な対応に従業員が身に付けられるように、毎年BCMシミュレーション訓練を実施しています。

* BCM: Business Continuity Managementの略で、事業継続マネジメントのこと。大規模災害、病気 の流行など、企業が事業を継続できなくなる事態に備え、対応策の決定やその実行、そのための訓練などを行うこと

グループ会社のリスクマネジメント体制

ジャトコグループでは、海外生産拠点をはじめとするグループ会社において、各社固有のリスクに対する包括的なリスクマネジメントを実施しています。BCM活動で培った経験やノウハウをグループ全体に展開し、グローバル共通リスクについては各社が連携して対応にあたっています。

適正かつ効率的な経営を実現するため、国内・海外のグループ会社は本社各担当部門との密接な連携のもと経営を行っています。ガバナンス体制の実効性を確保するため、監査役・内部監査室員を定期的に派遣し、各社の内部統制システムの有効性を継続的に確認しています。

具体的な取り組みとして、グループ会社社長が自ら経営の健全性と効率性を確認するためのEasy Check Listを導入し、ガバナンス維持・向上の視点からチェック項目を体系化した支援ツールの活用や、グループ会社を含む新任取締役に対するガバナンス教育を実施し、グループ全体のガバナンス意識の向上を図っています。これらの取り組みにより、ジャトコグループ全体における経営の透明性と健全性の確保を推進しています。

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

災害対策（物理的ハザード）

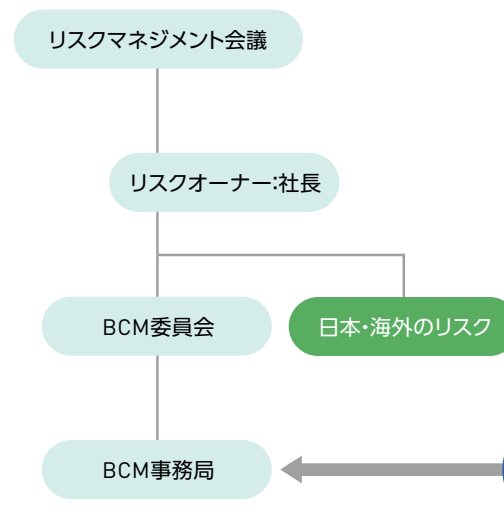


大規模災害発生時の事業継続に向けて

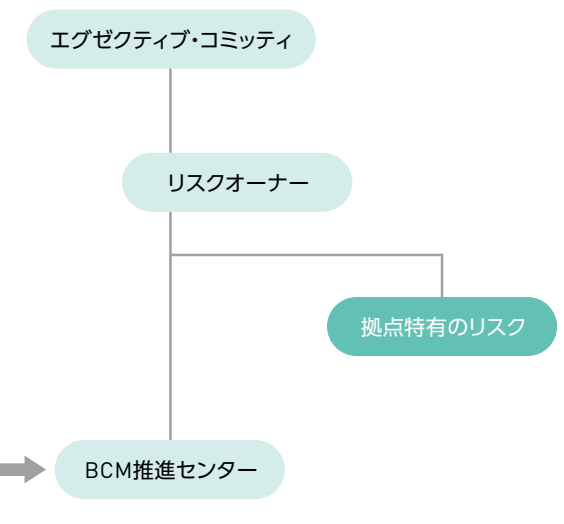
ジャトコのBCMの一環として、近い将来発生が懸念される大規模地震（震度6強以上）に対し、初動活動として人命救助、二次災害防止、また事業復旧活動として迅速かつ効果的な復旧を目標としたBCM活動を進めてきました。BCM構築の取り組みは新潟中越沖地震（2007年7月）、東日本大震災（2011年3月）、そして自工場に大きな被害をもたらした静岡県東部地震（2011年3月）等の経験を経て、見直し・強化されています。想定する災害も、地震はもちろん、新型コロナウイルス、IT障害、サプライチェーン供給停止と多岐にわたり、メキシコ、中国、タイ等の海外拠点が直面するリスクも日本国内のBCM整備で得られた経験を活用しジャトコグループ全体でグローバルに展開しています。さらに過去の災害からサプライチェーンを重視した活動を推進するために、各社にBCM体制診断等を通じ、サプライチェーン全体の強化にも努めています。ジャトコの実効性の高いBCMの原動力は繰り返し行われる訓練にあります。2008年以降、毎年BCMシミュレーション訓練を実施し、発災後の初動対応と事業継続への復旧体制を確認しています。この訓練は、想定される被害状況をもとに自動車メーカー・ビジネスパートナー対応、地域社会やメディア対応など、事業継続に関する課題を各部署・各拠点が連携して解決していくもので、このような訓練を繰り返し実施し、災害発生時の迅速な対応を目指しています。こうした拠点間連携を重視したシミュレーション訓練の成果は、静岡県東部地震での富士宮工場における各拠点からの円滑な支援受け入れと早期復旧となって具体的に現れています。

BCM推進組織

ジャトコのBCM推進組織



海外拠点のBCM推進組織



BCMシミュレーション訓練

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

災害対策（物理的ハザード）

従業員・地域の安全を守るために

日本国内における建屋や設備の地震対策

大規模地震が発生した際の建屋・設備・従業員への被害を防ぎ、一日も早い工場機能の復旧を図ることができるよう、日本国内の主要生産拠点では建物の耐震補強や生産設備の固定、天井やクレーンからの落下物対策など、幅広い「地震対策」を実施しています。

サプライチェーンの一員として、お客さまの生産への影響を最小限にとどめるよう、常に対策を考えています。

海外拠点における地震対策

グローバルに展開しているジャトコの海外拠点においても、地震などの大規模災害に備え、国内拠点と同様のBCM活動を実施しています。

また、2013年7月に稼働開始したジャトコタイランド社では、2011年に発生した大規模洪水の教訓から、建屋の基礎となる盛り土を当初計画から50cm高くし、津波・水害に備えました。

従業員の安全確保

大規模地震が発生した際に従業員の安全を確保するために、ジャトコでは避難場所や避難行動についての手順を細かく定めています。

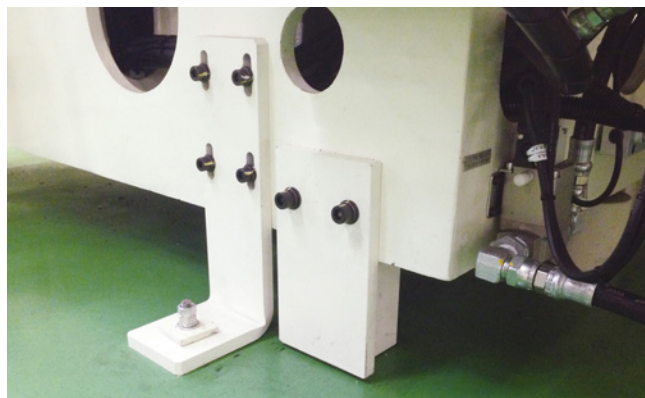
また、その浸透を図るため、日中・夜間などさまざまな状況を想定し、定期的に訓練を実施しています。その他、非常時には

各拠点において帰宅が困難になる従業員が発生することを想定し、水や食料、ヘルメット、毛布、寝袋、非常用トイレなどの備品を備蓄しています。

地域住民の安全・安心を確保

地域社会とともに歩むジャトコとして、地域の暮らしにおける安全・安心の確保に積極的に協力しています。

大規模災害が発生した場合に避難場所のない地域住民の方々に社内施設を緊急避難場所として提供できるよう、自治体の避難場所リストに登録し、体制の整備を推進しています。



新たに付加した設備の補助脚



盛り土を行った建築現場



富士市の指定緊急避難場所・広域避難地に指定

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

情報セキュリティ



情報セキュリティの強化

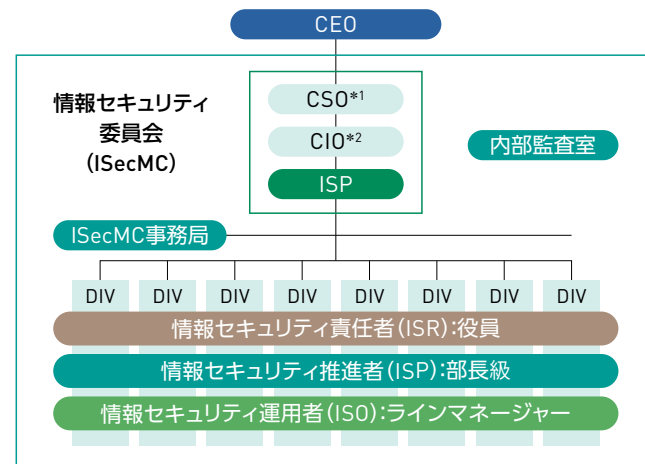
情報セキュリティの推進体制

ジャトコでは高い情報セキュリティを維持するため、全従業員が情報セキュリティを意識し、業務に取り組めるよう、「情報セキュリティ・ポリシー」を制定しています。

情報セキュリティ・ポリシーとは、ジャトコの情報セキュリティに関する基本方針を網羅的に示したものであり、以下の通り、情報の機密性・完全性・可用性を維持することを目的に制定されています。

1. 機密性：アクセスを許可された者だけがアクセスできること
2. 完全性：情報の正確性を保ち、処理方法の正確性及び透明性を保つこと
3. 可用性：許可されたユーザーが、必要時に利用できること

情報セキュリティ委員会



*1 CSO: Chief Security Officer *2 CIO: Chief Information Officer

これらが損なわれることにより、情報漏洩や誤った情報の公開、または情報が使えなくなるといった事態を引き起こすことがないよう、ジャトコでは「情報セキュリティ委員会」を設置し、推進体制を構築しています。委員会を通じてグループ共通の課題や対策を共有し、各部門または各グループ会社の実行状況を確認しています。

情報管理の徹底と教育・啓発活動を推進

近年、会社や組織が保有するデータの重要性が急速に高まる中、情報漏洩やハッキング、マルチウエア攻撃などの脅威も増えており、堅固な情報セキュリティは、会社の成長にとって不可欠な要素となっています。

ジャトコは情報インフラのさらなる強化に努めています。

サイバー攻撃などに備えるため、外部からの攻撃を防ぐさまざまな技術的施策を実施するとともに、万一侵入を許した場合でも情報流出を防げるよう、「サイバー攻撃対策本部」を設置し、速やかな対応が出来る体制・マニュアルを整えると共に、実際の有事を想定した訓練を年1回行っております。

情報セキュリティは、情報を取り扱う従業員一人ひとりの適正な管理意識にかかっていることから、標的型メール訓練等を通じて、新たな脅威に対する情報漏洩のリスク低減を図ると共に、情報資産管理台帳を用いた情報資産の管理徹底、グループの全従業員を対象とした情報セキュリティに関する教育を定期的実施するなど、継続的な管理意識の向上に努めています。

各部門・グループ各社の情報セキュリティ活動

情報セキュリティを適切に運営していくためには、部門・会社の単位で、情報セキュリティに関する現状やリスクを正確に把握してから、対策を立案・実施し、結果をレビューすることが不可欠であることから、ジャトコでは国際規格ISO27001に基づく、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）に準拠した日産グループによる評価を毎年実施するなど、PDCAサイクルを適切に回した対策を図っています。

各部門・各社における情報セキュリティにかかわる活動内容や発生したインシデント事案については、年3回行われる情報セキュリティ委員会で共有され、各部門・各社のベストプラクティスを互いに取り入れることで、海外拠点を含めたグループ全体における情報セキュリティ活動の標準化、共通施策の導入、教育の推進などより一層の充実を図っています。



データ

生産拠点別環境データ

社会性データ



生産拠点別環境データ（2024年度実績）

富士地区

【本社含む】
敷地：580,440m²
建物（延べ）：
389,403m²



富士宮地区

敷地：67,698m²
建物（延べ）：
66,756m²



八木地区

敷地：233,323m²
建物（延べ）：
68,277m²



大気

NOx：窒素酸化物 SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
小型ボイラー（22基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.001	0.00003
	NOx	ppm	100	45	29
	SOx	Nm ³ /h	0.002	0	0
金属加熱炉（16基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.005	0.001
	NOx	ppm	150	27	16
	SOx	Nm ³ /h	0.018	0	0
鋼材加熱炉（4基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.001	0.0002
	NOx	ppm	150	7	3
	SOx	Nm ³ /h	0.026	0	0
アルミ溶解炉（11基）	ばいじん	g/Nm ³	0.06	0.0031	0.006
	NOx	ppm	150	42	10.895
	SOx	Nm ³ /h	0.019	0	0.000
	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm ³	5	1.6	0.278
乾燥炉（1基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.002	0.002
	NOx	ppm	56	15	15.000
	SOx	Nm ³ /h	0.0048	0	0.000
	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm ³	5	0.0000011	0.0000011
乾燥焼却炉（1基）	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm ³	5	0.0000018	0.0000018

大気

NOx：窒素酸化物 SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
小型ボイラー（6基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.007	0.0028333
	NOx	ppm	100	79	74
	SOx	Nm ³ /h	0.01	0	0
金属加熱炉（3基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.037	0.00975
	NOx	ppm	150	74	35
	SOx	Nm ³ /h	0.01	0	0

大気

NOx：窒素酸化物 SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	2024年度	
				最大	平均
連続浸炭炉	ばいじん	g/Nm ³	0.1	ND	ND
	NOx	ppm	150	55	28
	SOx	Nm ³ /h	5.00	ND	ND

水質

規制値の（ ）内は日間平均

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	5.8～8.6	6.8	6.9
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	4	3
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	20（15）	6	5.1
浮遊物質（SS）	mg/L	20（10）	2	2
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	4	0	0
銅	mg/L	0.1	0	0
亜鉛	mg/L	1.0	0.07	0.05
大腸菌群数	個/mL	3,000	4	2
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0	0
ジクロロメタン	mg/L	0.02	0	0
ホウ素	mg/L	10	0	0
フッ素	mg/L	15	0	0
アンモニア性窒素	mg/L	100	1.6	1
硝酸性窒素			0.7	0.35
亜硝酸性窒素			0.39	0.23

水質

規制値の（ ）内は日間平均

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	5.8～8.6	7	6.9
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	1	0.5
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	20（15）	1.3	1.3
浮遊物質（SS）	mg/L	20（15）	0	0
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	5	0	0
フェノール類	mg/L	5	0	0
銅	mg/L	3	0	0
亜鉛	mg/L	2	0.05	0.05
溶解性鉄	mg/L	10	0	0
溶解性マンガン	mg/L	10	0	0
クロム	mg/L	2	0	0
大腸菌群数	個/mL	3,000	1	0.5
1・1・1-トリクロロエタン	mg/L	0.001	0	0
ホウ素	mg/L	10	0	0
アンモニア性窒素	mg/L	100	0.4	0.40
硝酸性窒素			0	0
亜硝酸性窒素			0	0

水質

規制値の（ ）内は日間平均

項目	単位	規制値 (協定値含)	2024年度	
			最大	平均
水素イオン濃度（PH）	—	5.8～8.6	7.4	7.1
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（10）	1	1
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	30（20）	1.4	0.6
浮遊物質（SS）	mg/L	30（20）	0.8	0.5
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	2.5	不検出	不検出
フェノール類	mg/L	0.3	不検出	不検出
銅	mg/L	1	不検出	不検出
亜鉛	mg/L	1	不検出	不検出
溶解性鉄	mg/L	2.5	不検出	不検出
溶解性マンガン	mg/L	2.5	不検出	不検出
クロム	mg/L	0.5	不検出	不検出
大腸菌群数	個/mL	1500	不検出	不検出
アンモニア性窒素	mg/L	16(12)	8.6	4.7
ニッケル	mg/L	0.5	不検出	不検出
有機燐	mg/L	1（0.5）	不検出	不検出
ホウ素	mg/L	10	不検出	不検出
フッ素	mg/L	8	不検出	不検出

生産拠点別環境データ（2024年度実績）



大気

NOx：窒素酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉（#1）	ばいじん	g/Nm ³	1,022.5	0.054	0.0049
	NOx	ppm	375.0		
アルミ溶解炉	ばいじん	g/Nm ³	-	0.146	0.013
	NOx	ppm	375.0	53.71	9
真空浸炭炉（#2）	ばいじん	g/Nm ³	1113.8	11.38	10.6
	NOx	ppm	-	-	-

水質

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	5-10	7.9	7.7
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	150	33.6	28
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	320	59.2	51
浮遊物質量（SS）	mg/L	150	10	10
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	5	5	5
フェノール類	mg/L	n/a		
銅	mg/L	4	2.2	2.2
亜鉛	mg/L	10	5.5	5.5



大気

TSP：浮遊粒子状物質

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉	TSP	mg/m ³	120	2.6	1.55
	非メタン炭化水素	mg/m ³	120	23	5.45

水質

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	6.0-9.0	7.2	7.1
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	300	18.8	3
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	500	193	78.5
浮遊物質量（SS）	mg/L	400	72	46
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	20	0.4	0.2



大気

TSP：浮遊粒子状物質

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉 No.1	TSP	mg/m ³	400	20.26	-
真空浸炭炉 No.2	TSP	mg/m ³	320	24.48	-

水質

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	5.5-9.0	7.90	7.66
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	500	54.0	26.80
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	750	162	110.5
浮遊物質量（SS）	mg/L	200	39	16.3
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	10	4.00	3.08

大気

TSP：浮遊粒子状物質

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉	TSP	mg/m ³	120	2.1	1.9
	非メタン炭化水素	mg/m ³	60	51.0	22.7
加工ライン	TSP	mg/m ³	120	2.0	1.8

水質

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	6.0-9.0	7.4	7.1
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	300	92.4	86.6
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	500	230	157.0
浮遊物質量（SS）	mg/L	400	15	15
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	100	5	4.52

社会性データ

従業員データ (年度)

ジャトコ株式会社		単位	2022	2023	2024
従業員数		人	5,000	4,909	4,695
	男性	人	4,570	4,478	4,266
	女性		430	431	429
平均年齢		歳	44	43	44
	男性	歳	44	44	44
	女性		39	39	39
勤続年数		年	21.0	18.8	21.8
	男性	年	21.8	19.2	22.3
	女性		15.9	15.6	17.5
障がい者雇用率		%	2.47	2.57	2.58
男性の育児休職取得率		%	16.5	30.2	38.6
育児休職後の復職率		%	100	100	100
	男性	%	100	100	100
	女性		100	100	100
年休取得日数		日	16.8	15.8	18.5
平均残業時間		時間/月	17.9	22.8	21.9
女性管理職		人	13	14	16
	比率	%	4.8	5.2	5.3
新規採用人数		人	50	42	65
	男性	人	42	36	56
	女性		8	6	9

範囲: ジャトコ株式会社

*男性の育児休職取得率=対象年度に育児休職を1日以上取得した男性従業員÷対象年度に配偶者が出産した男性従業員数

*新規採用人数の2024年度の数値は2025年4月時点

GRIスタンダード対照表



GRI スタンダード対照表

利用に関する声明	ジャトコ株式会社は、2024年4月1日から2025年3月31日までの期間について、GRI スタンダードを参照し、本対照表に記載した情報を報告します。
利用した GRI 1	GRI 1: 基礎 2021

GRI スタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数（PDF）
一般標準開示項目					
2	一般開示事項2021	2-1	組織の詳細	企業情報	P.6
		2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	編集方針	P.2
				企業情報	P.6
		2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	編集方針	P.2
		2-4	情報の修正・訂正記述	—	—
		2-5	外部保証	—	—
		2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	価値創造のあゆみ	P.8
				コア技術	P.10
				持続可能で責任ある調達	P.63-65
		2-7	従業員	社会性データ	P.76
		2-8	従業員以外の労働者	—	—
		2-9	ガバナンス構造と構成	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.67
		2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.67
		2-11	最高ガバナンス機関の議長	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.67
		2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.67
		2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.67
		2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	マテリアリティ（重要課題）	P.16
				コーポレート・ガバナンスの徹底	P.67
2-15	利益相反	「パートナーシップ構築宣言」への署名	P.63		
		コンプライアンスの強化	P.67-68		
2-16	重大な懸念事項の伝達	コンプライアンスの強化	P.67-68		
		リスクマネジメントへの取り組み	P.69		
2-17	最高ガバナンス機関の集会的知見	—	—		
2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.67		

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

GRI スタンダード	開示事項	該当ページタイトル	ページ数（PDF）
2-19	報酬方針	—	—
2-20	報酬の決定プロセス	—	—
2-21	年間報酬総額の比率	—	—
2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	CEO メッセージ サステナビリティ担当役員メッセージ	P.3-4 P.15
2-23	方針声明	モノづくりの考え方 サステナビリティ基本方針 ジャトコの環境方針 人財開発方針 安全衛生基本方針 健康経営宣言 品質に関する方針・考え方 人権についての考え方 サプライチェーンに対する基本的な考え方	P.11-13 P.15 P.20 P.49 P.52 P.55 P.59 P.62 P.63
2-24	方針声明の実践	モノづくりの考え方 サステナビリティ基本方針 ジャトコの環境方針 人財開発方針 安全衛生基本方針 健康経営宣言 品質に関する方針・考え方 人権についての考え方 サプライチェーンに対する基本的な考え方	P.11-13 P.15 P.20 P.49 P.52 P.55 P.59 P.62 P.63
2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス	人権についての考え方 コンプライアンスの強化	P.62 P.67-68
2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	コンプライアンスの強化	P.67-68
2-27	法規制遵守	コンプライアンスの強化	P.67-68
2-28	会員資格を持つ団体	モノづくりの考え方	P.13
2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	ステークホルダーエンゲージメント	P.66
2-30	労働協約	—	—
マテリアルな項目			
3	マテリアルな項目 2021	3-1	マテリアルな項目の決定プロセス
		3-2	マテリアルな項目のリスト
			マテリアリティ（重要課題）
			マテリアリティ（重要課題）と目指す姿

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

GRIスタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数（PDF）
	3-3	マテリアルな項目のマネジメント		マテリアリティ（重要課題） マテリアリティ（重要課題）と目指す姿 環境 事業 社会 人的資本 事業基盤	P.16 P.17 P.19-38 P.39-42 P.43-46 P.47-57 P.58-72
経済					
201	経済パフォーマンス 2016	201-1	創出、分配した直接的経済価値	企業情報 価値創造のあゆみ	P.6 P.8
		201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	—	—
		201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	—	—
		201-4	政府から受けた資金援助	—	—
202	地域経済での存在感 2016	202-1	地域最低賃金に対する標準的新入社員給与の比率（男女別）	—	—
		202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	—	—
203	間接的な経済的インパクト 2016	203-1	インフラ投資および支援サービス	コミュニティの発展 社会貢献活動	P.44 P.45-46
		203-2	著しい間接的な経済的インパクト	—	—
204	調達慣行 2016	204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	—	—
205	腐敗防止 2016	205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	—	—
		205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	コンプライアンスの強化	P.67-68
		205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	—	—
206	反競争的行為 2016	206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	—	—
207	税金 2019	207-1	税務へのアプローチ	—	—
		207-2	税務ガバナンス、管理、およびリスクマネジメント	—	—
		207-3	税務に関連するステークホルダー・エンゲージメントおよび懸念への対処	—	—
		207-4	国別の報告	—	—
環境					
301	原材料 2016	301-1	使用原材料の重量または体積	マテリアルバランス	P.23-24
		301-2	使用したリサイクル材料	循環型経済の構築	P.33-35
		301-3	再生利用された製品と梱包材	循環型経済の構築	P.33-35

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

GRI スタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数（PDF）
302	エネルギー 2016	302-1	組織内のエネルギー消費量	マテリアルバランス カーボンニュートラルへの取り組み 生産領域での取り組み	P.23-24 P.26 P.28
		302-2	組織外のエネルギー消費量	ライフサイクル全体での取り組み	P.27
		302-3	エネルギー原単位	マテリアルバランス	P.23-24
		302-4	エネルギー消費量の削減	マテリアルバランス PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減 2024年度 CO ₂ 排出量実績（グローバル）	P.23-24 P.25 P.26
		302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	環境マネジメント エネルギー効率の追求 脱炭素化の推進	P.22 P.42 P.26-29
303	水と廃水 2018	303-1	共有資源としての水との相互作用	大気・水資源・土壌保全	P.36-38
		303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	大気・水資源・土壌保全	P.36-38
		303-3	取水	マテリアルバランス	P.24
		303-4	排水	マテリアルバランス	P.24
		303-5	水消費	マテリアルバランス	P.24
304	生物多様性 2016	304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に 所有、貸借、管理している事業拠点	—	—
		304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	—	—
		304-3	生息地の保護・復元	社会貢献活動	P.45-46
		304-4	事業の影響を受ける地域に生息する IUCN レッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	—	—
305	大気への排出 2016	305-1	直接的な温室効果ガス（GHG）排出（スコープ1）	カーボンニュートラルへの取り組み	P.26
		305-2	間接的な温室効果ガス（GHG）排出（スコープ2）	カーボンニュートラルへの取り組み	P.26
		305-3	その他の間接的な温室効果ガス（GHG）排出（スコープ3）	ライフサイクル全体での取り組み	P.27
		305-4	温室効果ガス（GHG）排出原単位	PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減 カーボンニュートラルへの取り組み	P.25 P.26
		305-5	温室効果ガス（GHG）排出量の削減	2024年の環境実績 マテリアルバランス	P.22 P.23
		305-6	オゾン層破壊物質（ODS）の排出量	—	—
		305-7	305-7 窒素酸化物（NO _x ）、硫黄酸化物（SO _x ）、およびその他の重大な大気排出物	化学物質の管理活動 生産拠点別環境データ	P.38 P.74-75

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

GRIスタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数（PDF）
306	廃棄物 2020	306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	循環型経済の構築	P.33-35
		306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	循環型経済の構築	P.33-35
		306-3	発生した廃棄物	マテリアルバランス 廃棄物対策への取り組み 化学物質の管理活動	P.24 P.33 P.38
		306-4	処分されなかった廃棄物	廃棄物対策への取り組み	P.33-35
		306-5	処分された廃棄物	ユニット修理・再生への取り組み	P.35
308	サプライヤーの環境面の アセスメント 2016	308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	持続可能で責任ある調達	P.63-65
		308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	持続可能で責任ある調達	P.63-65
社会					
401	雇用 2016	401-1	従業員の新規雇用と離職	社会性データ	P.76
		401-2	フルタイム従業員には支給され、有期雇用の従業員やパートタイム従業員には支給されない手当	－	－
		401-3	育児休暇	社会性データ	P.76
402	労使関係 2016	402-1	事業上の変更に係る最低通知期間	－	－
403	労働安全衛生 2018	403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	労働安全衛生	P.52-57
		403-2	危険性（ハザード）の特定、リスク評価、事故調査	労働安全衛生	P.52-57
		403-3	労働衛生サービス	労働安全衛生	P.52-57
		403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	労働安全衛生	P.52-57
		403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	労働安全衛生	P.52-57
		403-6	労働者の健康増進	健康経営の取り組み	P.55-57
		403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と軽減	労働安全衛生	P.52-57
		403-8	労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	安全衛生基本方針	P.52
		403-9	労働関連の傷害	安全活動管理指標	P.54
		403-10	労働関連の疾病・体調不良	健康経営活動管理指標	P.57
404	研修と教育 2016	404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	－	－
		404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	人財育成	P.49-51
		404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	人財育成	P.49-51

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

GRI スタンダード	開示事項	該当ページタイトル	ページ数 (PDF)
405 ダイバーシティと機会均等 2016	405-1 ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	ダイバーシティ&インクルージョン 人権マネジメント コンプライアンスの強化	P.48 P.62 P.67-68
	405-2 基本給と報酬の男女比	—	—
406 非差別 2016	406-1 差別事例と実施した救済措置	—	—
407 結社の自由と団体交渉 2016	407-1 結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	—	—
408 児童労働 2016	408-1 児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	—
409 強制労働 2016	409-1 強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	—
410 保安慣行 2016	410-1 人権方針や手順について研修を受けた保安要員	—	—
411 先住民族の権利 2016	411-1 先住民族の権利を侵害した事例	—	—
413 地域コミュニティ 2016	413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	コミュニティの発展 社会貢献活動	P.44 P.45-46
	413-2 地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト（顕在化しているもの、潜在的なもの）を及ぼす事業所	—	—
414 サプライヤーの社会面の アセスメント 2016	414-1 社会的基準により選定した新規サプライヤー	持続可能で責任ある調達	P.63-65
	414-2 サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	—	—
415 公共政策 2016	415-1 政治献金	—	—
416 顧客の安全衛生 2016	416-1 製品・サービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	信頼される品質	P.59-61
	416-2 製品・サービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	—	—
417 マーケティングとラベリング 2016	417-1 製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	—	—
	417-2 製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	—	—
	417-3 マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	—	—
418 顧客プライバシー 2016	418-1 顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	—	—

Jatco